

「日本の美」総合プロジェクト懇談会 (第3回)

議 事 次 第

日時：平成28年4月7日(木)
17時50分～19時05分
場所：官邸2階小ホール

- 1 開 会
- 2 総 理 挨 拶
- 3 議 事
○「日本博」について
- 4 閉 会

《配布資料》

- 資料1 「日本博」に関する懇談会における意見等
- 資料2 「日本博」について（イメージ）

- 参考資料1 「日本の美」総合プロジェクトについての論点
- 参考資料2 現状関連施策の概要
- 参考資料3 海外における日本文化発信イベント例
- 参考資料4 ジャパンフェスティバル1991 主要個別企画表

「日本博」に関する懇談会における意見等

総論

- 文化には力がある。日本の文化が外国で脚光を浴びれば、日本の発言や行動が、世界の人々の記憶に残るようになる。「日本の美」の発信を通じて、世界における日本の存在感を高めることは、日本の国益に直結するもの。だから、文化の力で、日本の存在感を高める方法を考えなくてはならない。
- 各国でクールジャパンという日本びいきの若者が出てきている中、文化芸術というソフトパワーを充実させることは、平和外交、地方創生にも資するものである。
- 異物の混在を許容し、純粹で混沌とした多様性に富む日本文化の価値観は、世界の平和に貢献できるはず。

体制等

- 日本博の成功には、開催地における日本びいきの有志たちが主催者となるなど中心になることが必要。
- 一方的に、「日本はこうだ」とおしつけるのではなく、世界の人と共有する視点が必要。
- 文化や芸能、芸術の催しは、人々がたくさん集まるので、テロ等に狙われやすい。セキュリティを文化交流の眼目として取り入れて考えていかなければならない。

場所

- 2016年にローマで行われる日本仏教美術展を第1期に、そして2017年にはパリかロシアで、2018年にはロンドンか北京で、2019年にはニューヨークかロサンゼルスで、2020年には大阪で開催することも一つのアイデア。
- 外に向けるのと同時に、国民自身が、「日本人とは何か」ということを知らないという意味がない。日本博は日本でも開催し、「日本人とは何か」ということの確認を行うべき。

企画

- アイテムを絞り、一度で全てを見せないという手もあるのではないか。「点」ではなく「線」にして、毎年継続的に世界各地で行い、最終的に「面」にしていく方法も考えられる。例えば、アニメと浮世絵と縄文土器の同時展示をする。縄文をキーワードに、「アニミズム」「自然を愛する心」「命の平等」「擬人画」「北斎漫画」「富嶽三十六景」「アニメーション」がアニミズムにより一貫して成立していることを見せる。

- 茶道や能、狂言のエキスを鑑賞してもらう総合事業を展開することで、日本の伝統的な心・技・体の一体化した美を世界の人々に理解してもらうことができるだろう。
- 日本はテクノロジーの国なので、伝統工芸等に対し、日本の技術力がいかに貢献しているかということも組み合わせて発信してはどうか。
- 縄文時代は、1 万年以上続いた世界的にも稀な時代。このことも発信してはどうか。
- 日本は、多様な文化を国風化していった歴史があり、国風文化の紹介に重点を置いてはどうか。中国文化の垂流とみられがちな日本文化ならではの特質を強調する必要がある。日本文化の不思議な独自性、多様性を提示してはどうか。

【懇談会で出た企画例】

- ・ 縄文土器や仏像、浮世絵、美術、漆器、陶器、磁器の工芸、着物、盆栽の展示。
縄文アニミズム信仰から鳥獣戯画を経て北斎漫画、アニメーションに至るまでの歴史的展示。
- ・ 日本独特の食文化が出展されるレストランコーナーの設置。
- ・ 茶室における茶の湯を振る舞い。
- ・ 陶器づくり体験コーナーの設置。
- ・ 日本庭園の造成。
- ・ CLT木材による芝居小屋における歌舞伎、文楽、能、狂言等々の上演。
- ・ 広場での流鏑馬の実演。
- ・ 和紙づくりや美術の修復技術の実演。 等

※ 国風文化の組み合わせ例

- ・ **自然崇拝の信仰**（～現代） 神道の祭式、神社建築、神道美術
- ・ **土の造形**（原始時代～古墳時代） 縄文土器・土偶・埴輪
- ・ **和風文化の確立**（平安時代～鎌倉時代） 仮名の成立と仮名書、絵巻物（マンガ・アニメの源流）
- ・ **木造の美**（～現代） 木造建築、木造彫刻、木竹工芸（とくに蒔絵）
- ・ **侍たちの武具、武装**（平安時代～江戸時代） 鎧、甲冑、刀槍具、弓矢、鞍
- ・ **生活文化の豊かさ**（室町時代～現代） 茶道、花道、香道などの道具とデモンストレーション
- ・ **芸能の多彩**（室町時代～現代） 能、狂言、歌舞伎、文楽などのデモンストレーション
- ・ **建築内装飾の絢爛豪華**（桃山時代～江戸時代） 襖絵、屏風絵、杉戸絵
- ・ **和装と化粧**（～現代） 着物、結髪、化粧法の絵画・版画の展示やデモンストレーション
- ・ **町人（庶民）の美術**（江戸時代） 琳派、浮世絵
- ・ **和楽と和楽器**（～現代） 琴、笛、三味線の楽器とそれらの演奏
- ・ **食文化の多様** 和食、日本酒の試食提供

「日本博」について（イメージ）

1. コンセプト

- (1) 近年、世界的な日本文化ブームにより、着物や和食といった生活に根ざした日本文化や、マンガやアニメなどのポップカルチャーが益々注目を浴びている。しかしながら、これら日本文化の背景に存在する、歴史的な連続性あるいは多面性については、日本人自らも十分に理解しているとはいいがたい。
- (2) 日本文化の形成過程を遡ると、それぞれの時代毎に様々な特徴が浮かび上がる。縄文時代に起源を有する定住農耕文化、外国渡来の文化に大きく影響を受けた飛鳥時代の仏教文化、それを摂取し日本化することで発展した平安時代の国風文化、国家建設を巡る動乱期の武家文化、江戸の太平の時代に円熟した歌舞伎や浮世絵などの町人文化、欧米文化を取り入れた明治時代の文明開化、そして戦後は高度経済成長と国際化を経て、日本文化は更なる多様性を帯びている。
- (3) このような日本文化の特徴は、長い歴史に裏打ちされた伝統を守りつつ、常に更なる高みを目指し続けることで生まれる。たとえば、「伝統」と「革新」の融合（歌舞伎等）。外国からもたらされる新しい文化を取り入れつつも、日本ならではの文化へと昇華させていく、「渡来」と「固有」の調和（仏像、水墨画等）。四季折々の自然に寄り添う中で美しさを求める「人間」と「自然」の共生（建築、和食等）。日常の中で生まれる様式美と機能美の融和が織りなす「生活」と「文化」の共存（陶器、茶道等）。「日本の美」とは、このような多様な切り口から鑑賞することで、捉えることができる。
- (4) 日本文化は、時代毎にこのような多様な様相を呈しながらも、一貫して「日本らしさ」を保ってきた点において、連続性・均一性という静的要素と、多面性・革新性という動的要素を持ち合わせている。日本文化が大きく変革した明治維新から150年を数える2018年、東京オリンピック・パラリンピック大会が開催される2020年を間近に控えた今、日本文化を様々な角度から総合的に再検証し、世界に対して紹介する試みが必要となっている。
- (5) ついては、日本の持つ文化芸術の力を結集した「日本博」を、今後以下のように展開することとし、日本の文化芸術と日本人の美意識や価値観を国内外にアピールし、もって国際社会における日本の存在感の向上を目指す。同時に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、その文化プログラム推進の起爆剤とするとともに、文化プログラムと連携し、観光面も含め、相乗効果が上がるものとすることを目指す。

2. 「日本博」の内容（詳細別紙）

日本の持つ文化芸術の力を結集した「日本博」として、日本文化を体現するような一つの行事を核としつつ、それに付随するイベント群を集中的に開催し、様々な角度から日本文化を展覧する。その際、以下のようない点に留意する。

【重要な視点】

- ◇ 日本文化を担う人々のニーズと意思を尊重し、海外での活動に意欲的な方々を支援するような企画とする。
- ◇ 開催地のニーズや事情を十分考慮した企画とする。
- ◇ 開催地の日本文化関係者や団体の協力を仰ぎ、それらの方々の活動の後押しとなるような企画とする。
- ◇ 開催地の既存の文化行事等との連携も検討する。
- ◇ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムと連携する。
- ◇ 事業の成功のためには、効果的な宣伝が不可欠であるところ、十分な広告費を前提とした予算配分とする。
- ◇ 規模や場所によるが、大型の美術品の展示には、一定の準備期間（大手の美術館の場合、通常3年）が必要であることに留意する。

3. 開催時期・場所(案)

○2016年 ローマ（日本仏像展（仮称））

○2018年 海外主要都市

○2020年 国内

※2016年～2020年の間は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムと連携

（了）

「日本博」の企画イメージ（案）

コンセプト

日本の持つ文化芸術の力を結集した「日本博」として、日本文化を体現するコア事業及び複数のサイド事業を数ヶ月で集中的に実施し、様々な角度から日本文化を展覧する。

伝統文化

ー舞台公演

歌舞伎，能，狂言，文楽等の公演。演者によるワークショップ，化粧・着付け体験等。

ー展覧会

縄文土器，陶芸，琳派，浮世絵，漫画等の展示。

ー「道」の体験

書道，華道，茶道等の実演会と体験会。

現代美術

ー展覧会

若手芸術家から世界的に著名な芸術家まで，多様な現代芸術の世界を紹介。プロジェクション・マッピング等の最新技術も活用。建築に関する展示も行う。

音楽

ー和楽器による演奏会

和太鼓，琴，三味線，雅楽など，日本古来の楽器を使った演奏会。

ーオペラ，クラシックのコンサート

一流の声楽家・演奏家・指揮者等によるコンサート。

クールジャパン

ー最先端技術

ロボット，4Kテレビ，新型航空機等，日本が誇る最先端技術を，触って楽しめるような仕組みとともに展覧。

ーコンテンツ

映画やアニメの上映会。監督や作家などによる講演会。

ーポップカルチャー

コスプレサミット，東京ガールスコレクション等，日本発のポップカルチャーイベントを輸出し，現地のファッショニスタ等インフルエンサーも招待。

武道・スポーツ

ー武士道

日本の武士道精神を紹介するため，鎧や刀を展示し，侍・忍者の体験会，殺陣の実演を開催。西欧の騎士道と比較する展示や講演会。

食文化

ー試食会

一流シェフによる和食等の提供。海外の食文化を日本風に消化・発展させた例として，カレーライスやラーメンも紹介。日本独自の文化としての食品サンプルの展示。

ー講演会

懐石料理や精進料理の背景にある精神や歴史，「うまみ」に関する講演会やセミナー。

観光

ー観光展

日本各地の魅力を発信し，地方の工芸品から伝統の祭りを含む日本の観光資源を一挙にショーケースする観光展。

※詳細な内容については，関係省庁連携の下，開催国の要請や文化関係団体等と調整を行いつつ，検討する。

（了）

海外主要都市における文化イベントの例

	パリ	ロンドン	NY	ロサンゼルス	モスクワ	北京
毎年の 関係行事 (来場者数)	・JAPAN EXPO(ポップ系) (25万人) ・KINOTAYO現代日本映画 祭(6千人)	・ジャパン祭り(7万人) ・ハイパー・ジャパン(年2 回、計約14万人)	・Japan Day (6万人) ・Japan Week (40万人: 会 場となった駅の利用者数) ・ブルックリン植物園桜祭り (8万人)	・アニメ・エキスポ(20万人) ・二世ウィーク(4万人) ・LA EIGA FEST(3千人)	・日本の秋(約20万人)	—
近年の 関係行事 (大使館が 把握している もの)	・歌川国芳展(2015)(10万 人) ・ボンマルシェ百貨店日本 展(2014) ・杉本文楽(2013) ・平松礼二展(2013)(7.4万 人) ・「魯山人の美」展(文化 庁)(2013) ・阿波踊り(数千人)(2014)	・大英博物館 春画展 (2013-4)(9万人) ・大英博物館 根付け展 (2014) ・大英博物館 マング展 (2015) ・蜷川カンパニーによる演 劇「ハムレット」「海辺のカフ カ」(2015) ・バービカン他 鼓動公演 (2016) ・テートモダン 世界のポッ プカルチャー特別展におけ る日本関連行事(2016) ・サーチ・ギャラリー チー ムラボ展(2015) ・カートゥーン・ミュージアム 劇画展(2014) ・The Old Truman Brewrey 北斎展(2013) 他多数。	・Grand Japan Theater: 市 川海老蔵等による歌舞伎、 能、狂言公演(2016) ・A Night of Kyogen 万作の 会(ジャパン・ソサエティ) (2015) ・Garden of Unearthly Delights: チームラボによ る鳥獣戯画をモチーフとし たデジタルアート作品等の 展示(ジャパン・ソサエティ) (2015) ・平成中村座(リンカーンセ ンター)(2014)	・草間彌生、村上隆などの 作品の展示(ザ・ブロード美 術館)(2015-16) ・石内都と日本の若手女性 写真家による写真展(J・ ポール・ゲティ美術館(ゲ ティ・センター))(2015-16) ・ハローキティ展(全米日系 人博物館)(2014-15)	・日露武道交流年(2014)(6 千人) ・仙台フィル管弦楽団 (2013)(2.5千人)	・日本歌舞伎・中国京劇、 日中友好親善公演「梨園の 約束」(2015) ・「イーハトーブ交響曲北京 公演」初音ミク起用(2015) ・クレヨンしんちゃん25周年 特別展(2015) ・「コシノジュンコ・ファッショ ンショー」3千人交流団関 連イベント(2015) ・ドラえもん45周年展 (2015) ・日中交流集中月間事業 (NHK交響楽団北京公演 等)(2015) ・Yoshikiワールドツアー (2014) ・由紀さおり・安田祥子コン サート(2013)
国際交流基金 の主要事業 (2014) (企画・助成)	・「北斎」展(パリ・グランパ レ)(30万人) ・津軽三味線公演 ・大藏流狂言公演 ・日本書芸術振興団書道レ クチャー・ワークショップ ・美・JAPON『着物による日 本の美』公演 ・紫舟アトリエ(書道)講演 ・能楽師・山井綱雄公演 ・野田秀樹「THE BEE English version」公演 ・勅使川原三郎/KARAS 公演 ・「エヴァンゲリオンと日本 刀」展(パリ日本文化会館)	・「戦後日本の変容」展 ・Modern Japanese Sculpture(大正から昭和初 期の日本の彫刻を欧州に 紹介する展覧会) ※日本映画巡回上映会(毎 年)を始め、文楽公演 (2016)など、これ以外にも 多数の事業を実施してい る。	・溝口健二特集巡回上映 ・琉球チムドン楽団公演 ・藤田祥他(備前焼)米国 ワークショップ・デモンスト レーション ・竹本駒之助ほか(伝統芸 能)公演	・「楽—茶碗の中の宇宙」展 ・「新・現代日本デザイン 100選」展 ・長唄公演 ・英語落語公演 ・日本映画上映 「Japanema」 ・講演シリーズ ・狂言公演(2015) ・シネマ歌舞伎(2015)	・「写楽発見」展 ・第48回日本映画祭 ・第16回日本映画レトロス ペクティブ・岡本喜八監督 特集 ・京都創生座伝統芸能公演	・WASABI(邦楽)公演 ・「新海誠」展

「日本の美」 総合プロジェクトについての論点

※ 黄色マーカーは前回配付資料からの更新部分、青字は参考資料 2 の関連ページ

懇談会における御意見等	現状関連施策及び今後考えられる対応等について
<p>1. 総論</p> <p>○「日本の美」とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の美」は、すべてのものに命が宿り、神が宿するという、縄文時代の自然を愛する心から発するもの。 ・「日本の美」は、長い年月をかけて芸や技を精進努力することで高い精神的境地に達する。その内面が形として表れてくるものが「美」である。 ・日本固有の価値観は、異物の混在を許容する価値観。本来、分かりにくいことが文化の基本的スタンスであり、これが好奇心と異国情緒をあおる。・文化は、理屈ではなく、日本人の奥のほうから「分かる」という、遺伝子や血の中で思うもの。この感じを大切にすべき。 ・文化芸術の分野は広く、歴史的な総合文化である。 	<p>—</p>
<p>○日本文化の多様性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化の特色は多様性にある。社会のあらゆる階層がそれぞれの文化を持ち、誇りを持っている。日本文化の多様性を海外に全部押し付けないようにしてほしいが、同時に、これを確保しながら、「日本の美」の展開を進める必要がある。 	<p>—</p>
<p>○クラウドファンディング等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政のことを考えると、「案内人」の存在と、国民を巻き込むことの双方が大事。クラウドファンディングのような形も含め、資金面の方法論を検討する必要がある。 	<p>【現状関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4次「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第4次基本方針）において、重点的に取り組むべき施策として、「2020 年東京大会を見据えて、企業メセナ協議会が構築した基金をはじめ、民間団体等が設ける様々な基金への寄附等の協力を、民間企業等へ要請するとともに、企業等の文化芸術活動を促す等、民間からの多様な支援の方途を開く。」と記載。（企業によるメセナ活動費総額約194億円（回答があった245社の総額）、企業財団による活動費総額646億円（回答及び公表データによる計167団体の総額） 出典：公益社団法人企業メセナ協議会「メセナ活動実態調査（平成26年度）」【文化庁】（P 1～4） <p>【今後考えられる対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4次基本方針に沿って、民間資金の積極的活用等、多様な文化財源の確保など具体策の実現に引き続き取り組む。【文化庁】
	<p>○総論に関するその他の関連施策等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の多様な文化を通じて、日本全国で2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運を醸成するため、関係府省庁、東京都、大会組織委員会を構成員とする関係府省庁等連絡会議を開催。（平成28年3月2日第2回開催）【内閣官房オリパラ事務局】（P 5）

<div>2. 海外への発信</div> <div>○海外発信の意義</div> <div><ul style="list-style-type: none">・「日本の美」の発信を通じて、世界における日本の存在感を高めることは、日本の国益に直結するもの。・各国でクールジャパンという日本びいきの若者が出てきている中、文化芸術というソフトパワーを充実させることは、平和外交、地方創生にも資するものである。</div>	
<div>○海外主要都市における「日本博」の開催</div> <div><ul style="list-style-type: none">・誇るべき日本文化を一堂に集めた、「日本博」を開催する。その成功には、開催地における日本びいきの有志たちが主催者となるなど中心になることが必要。・アイテムを絞り、一度で全てを見せないという手もあるのではないか。「点」ではなく「線」にして、毎年継続的に世界各地で行い、最終的に「面」にしていく方法も考えられる。例えば、アニメと浮世絵と縄文土器の同時展示をする。縄文をキーワードに、「アニミズム」「自然を愛する心」「命の平等」「擬人画」「北斎漫画」「富嶽三十六景」「アニメーション」がアニミズムにより一貫して成立していることを見せる。・2016年にローマで行われる日本仏教美術展を第1期に、そして2017年にはパリかロシアで、2018年にはロンドンか北京で、2019年にはニューヨークかロサンゼルスで、2020年には大阪で開催することも一つのアイデア。・茶道や能、狂言のエキスを鑑賞してもらう総合事業を展開することで、日本の伝統的な心・技・体の一体化した美を世界の人々に理解してもらうことができるだろう。・日本は、多様な文化を国風化していった歴史がある。不思議な独自性、多様性を組み合わせていくとよい。・外に向けるのと同時に、国民自身が、「日本人とは何か」ということを知らないという意味がない。日本博は日本でも開催し、「日本人とは何か」ということの確認を行うべき。・一方的に、「日本はこうだ」とおしつけるのではなく、世界の人と共有する視点が必要。・日本はテクノロジーの国なので、伝統芸等に対し、日本の技術力がいかに貢献しているかということも組み合わせで発信してはどうか。・縄文時代は、1万年以上続いた世界的にも稀な時代。このことも発信してはどうか。・文化や芸能、芸術の催しは、人々がたくさん集まるので、テロ等に狙われやすい。セキュリティを文化交流の眼目として取り入れて考えていかなければならない。</div> <div>(企画例)</div> <div><ul style="list-style-type: none">・縄文土器や仏像、浮世絵、美術、漆器、陶器、磁器の工芸、着物、盆栽の展示。・縄文アニミズム信仰から鳥獣戯画を経て北斎漫画、アニメーションに至るまでの歴史的展示。・日本独特の食文化が出展されるレストランコーナーの設置。・茶室における茶の湯を振る舞い。・陶器づくり体験コーナーの設置。・日本庭園の造成。・CLT木材による芝居小屋における歌舞伎、文楽、能、狂言等々の上演。・広場での流鏑馬の実演。・和紙づくりや美術の修復技術の実演。 等</div>	<div>【現状関連施策】</div> <div><ul style="list-style-type: none">・我が国の優れた文化財を諸外国に紹介することにより、我が国の歴史と文化に対する理解の増進と国際親善の推進に寄与することを目的として、毎年度1か所程度で海外展を実施。(昭和26年度開始以降、通算77回実施。平成27年度は、「狩野派」展(米国・フィラデルフィア)等を開催。平成28年度は、「日本仏像展」(仮称)(イタリア・ローマ)を開催予定。))【文化庁】(P6、7)・メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的として、文化庁メディア芸術祭受賞作品を海外で広く紹介するため、海外で開催されるメディア芸術関連のフェスティバルに参加・出展。(27年度実施国：チリ・サンチアゴ(平成27年10月)、スペイン・マドリード(平成28年1月)、インド・ムンバイ(平成28年2月))【文化庁】(P8)・外務省及び国際交流基金は、諸外国において、日本文化紹介事業、伝統芸能などの公演、日本関連美術展、日本映画上映会などを実施し、相手国における親日感の醸成、日本理解の促進を図っている。(平成27年度は、在外公館を通じて約2000件の事業を、国際交流基金を通じて約200件の事業を、100か国以上ののべ300都市以上で実施)【外務省、国際交流基金】(P9～11)・「食」をテーマとするミラノ万博(2015年5月～10月)において、以下の取組を実施。<ul style="list-style-type: none">①自然と共生する日本の農林水産業や多様な食文化を発信。②本格的な日本食を提供するレストランを設置するとともに、地方公共団体や各種団体の協力により、地域の多様な食文化や伝統行事等を紹介。③和食器等の伝統工芸品の展示等によりクールジャパンを紹介。④旅館のおもてなし体験や、伝統的工芸品の制作実演を行い、日本文化を感じる旅について情報発信。⑤日本の誇る美しい自然の景観を素材に訪日プロモーションブースを出展するとともに、「和食；日本人の伝統的な食文化」をテーマとした国際発信事業など、日本文化を発信するセミナーやステージイベントを実施。 (日本館には、万博総来場者数の1割強にあたる228万人が来館。ジャパンサローネ(別館)来場者数約3万人)【農林水産省、経済産業省、観光庁、文化庁】(P12)</div> <div>【今後考えられる対応等】</div> <div><ul style="list-style-type: none">・(資料2参照)</div>

○映画による世界市場の開拓

- ・映画や映像は、日本の奥深さを伝達する最も効率の良いメディアであり、戦略的に活用してはどうか。
- ・制作費の半額助成などにより、世界に異国情緒と夢を提供できる時代劇の復興を目指すべき。
- ・ハリウッド映画のノウハウを研究する「ドラマチカ」研究部会を設置する。研究部も必要。映画への助成は、海外の方が日本を格好いいと思う感覚への貢献であり、その第一作目として、「天孫降臨」などをアニメでつくるなどしてはどうか。
- ・インターネット等の普及が進む中で、コンテンツという観点から支援することも必要。
- ・日本フィルムコミッションを組織し、世界中からの日本での映像制作を支援する。

【現状関連施策】

- ・映画による国際文化交流を推進し、我が国の映画の振興に資することを目的に、国際共同製作による映画の製作活動を支援。（平成27年度補助実績 5件 約2億円）【文化庁】（P 1 3）
- ・我が国の優れた映画の製作活動を奨励し、その振興を図るため、日本映画の製作活動を支援。（平成27年度補助実績 42件 3.9億円）【文化庁】（P 1 4）
- ・放送コンテンツ等海外展開支援事業（平成26年度補正予算）
総務省・経産省・外務省・観光庁の連携による標記事業の一環として、外務省では、国際交流基金を通じて、商業ベースでは販売が困難な途上国等に対し、各テレビ局・映画製作会社等が有するテレビドラマ・映画等のコンテンツを無償供与する事業を実施。（平成27年度は約70か国からのべ800番組程度の提供希望があり、のべ500番組以上の採用を内定）。また、総務省においても、表記の事業の一環として、地域の魅力を伝える放送コンテンツを海外に継続的に発信する事業を実施（平成27年度は34事業を採択。）【外務省、国際交流基金、総務省】（P 1 5）

【今後考えられる対応等】

- ・国際共同製作映画の支援
映画による国際文化交流を推進し、我が国の映画の振興に資することを目的に、国際共同製作による映画の製作活動を支援する。その際、時代劇、伝統芸能や職人等を題材とする等、「日本の文化」が主なテーマとなっている作品について特別の支援枠を設ける等、我が国の文化芸術や日本人の美意識・価値観を国内外にアピールする作品の製作の促進を図る。【文化庁】
- ・諸外国における日本映画特集の上映
諸外国において日本映画の特集を上映することにより、映画を通じた文化交流・人材育成を図り、日本文化への理解を促進するとともに、日本映画の海外での上映機会の増加を図る。特集上映プログラムの作品選定に際しては、時代劇等の日本の文化が描かれている作品を組み込み、我が国の文化芸術や日本人の美意識・価値観など多様な魅力を発信できる構成となるよう工夫する。【文化庁】

○文化宰相としての総理大臣

- ・世界の文化人を集め、薪能などを開催してはどうか。

○東京オリンピック・パラリンピック競技大会との連携

- ・大会の聖火台を世界最古の縄文式土器である埴土器とし、日本が 1 万 6000 年以上の文化的歴史を持つ国であることを世界に伝えてはどうか。
- ・オリンピックメダリストに渡される花を、皇室の紋章である菊とすることで、日本の皇室が世界一の伝統を持つことを発信してはどうか。

【現状関連施策】

- ・beyond2020プログラムの推進

2020年は文化プログラムを通じて日本の魅力を発信する機会であり、2020年以降を見据え、日本の地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーをつくり出すことが求められている。こうしたレガシー創出に資する文化プログラム、beyond2020プログラムを推進し、日本全国に展開する。【オリパラ事務局】

【今後考えられる対応等】

- ・組織委員会との連携

・メダリストに手渡されるビクトリーブーケに使用する花については、組織委員会にて検討されることになるが、日本各地の地域特産品を取り入れて日本の文化を世界に発信することは非常に重要である。組織委員会における検討段階において幅広く意見を取り入れるよう働きかけてまいりたい。

- ・聖火台の仕様については、開会式のセレモニーの内容等を踏まえて、今後、組織委員会が設置する演出チームを中心に具体的な検討を進める。【オリパラ事務局】

○エバンジェリスト制度の創設

- ・宣教師がキリスト教を普及させたように、「日本の美」の普及においても、草の根で普及活動を行う「エバンジェリスト」、「案内人」のような仕組みを導入してはどうか。

【現状関連施策】

- ・文化庁では、平成15年度より、芸術家、文化人等を「文化交流使」(Japan Cultural Envoy)に指名、海外に派遣し、世界の人々の日本文化への理解の深化や、日本と海外の文化人のネットワークの形成・強化につながる活動を推進。(平成27年度は7名を指名し、それぞれ1か月から半年程度の活動を実施。)

- ・国際交流基金では、海外において舞台公演、講演、デモンストレーション、ワークショップ等の文化芸術事業を実施するため、日本文化専門家の短期派遣（基本的に1か月以内）を実施。(主催・助成あわせて年間130件程度)

【今後考えられる対応等】

- ・文化庁の進める文化交流使（年間7～8名程度を指名し、1か月以上1年以内の期間派遣）や、国際交流基金の日本文化専門家の短期派遣（基本的に1か月以内。主催・助成あわせて130件程度）を活用しつつ、更なる取組について検討する。

○日本文学の翻訳の充実

- ・文学は、影響力は狭いが深いものを与えることができる。純文学の翻訳を集中的にやっていただきたい。

【現状関連施策】

- ・現代日本文学の翻訳・出版、翻訳コンクール等を実施し、現代日本文学の海外発信基盤整備に取り組んでいるが、現代日本文学の翻訳・出版事業については、平成24年度行政事業レビューにおいて、すでに廃止が決まっている。(翻訳作品121(言語別延222作品)、出版数114作品(言語別延181作品))

- ・国際交流基金「翻訳出版助成」
国際交流基金では、日本理解及び日本研究の促進を目的として、日本文学を含む、日本語で書かれた人文・社会科学及び芸術分野の図書の外国語翻訳・出版を計画する海外の出版社に対し、経費の一部を助成。(平成27年度採用件数：29件)

	<p>【今後考えられる対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、翻訳コンクール等を実施することにより、優れた翻訳者の発掘・育成に取り組んでいく。【文化庁】 ・引き続き、日本の文学を含めた優れた図書の外国語への翻訳への助成を実施していく。【国際交流基金】
<p>○若者の語学力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を紹介していくためには語学力が必要。2020年オリンピック・パラリンピックで文化によるおもてなしを行うためにも、しっかりとした準備が必要。 	<p>【現状関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央教育審議会での審議を受けた次期学習指導要領の改訂時に導入予定の小学校英語の早期化・教科化等を先取りして行う地域の取組への支援（平成27年度29地域）、ネイティブによる教員研修（英語教育推進リーダー育成のため、年間600人の小中高教員を対象に実施）やALT等の外部人材の活用等の取組を実施。【文科省】（P 1 9） ・国費による海外留学支援制度や、民間の協力を得た海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の推進。【文科省】（P 2 0、2 1） <ul style="list-style-type: none"> ＜国費による支援（平成28年度予算額での支援対象人数）＞ <ul style="list-style-type: none"> （高校生等）1,300人 （大学生等）大学院学位取得型：270人、協定派遣型：23,000人 ＜トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（採用実績）＞ <ul style="list-style-type: none"> （高校生等）第1期派遣留学生として303人を採用 （大学生等）第1～4期派遣留学生として計1,420人を採用 <p>【今後考えられる対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領改訂に向け、引き続き、小学校英語の早期化・教科化等を先取りして行う地域への支援や指導体制整備等、先取りした抜本的な改革を実施。【文科省】 ・2020年までに日本人の海外留学者数を倍増させるという目標に向け、留学支援等を実施。【文科省】
	<p>○海外への発信に関するその他の関連施策等について</p> <p>【現状関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックに向けて訪日外国人の増加が見込まれ、世界からの注目度の高まる機を捉え、2016年リオデジャネイロ大会後から全国津々浦々で文化プログラムの展開に向け、文化庁が取り組む文化プログラムの基本構想を策定（H27.7）するなど、組織委員会、東京都、関係省庁等と文化プログラムの推進に向けた準備を実施。【文化庁】（P 2 2） ・日本の歴史や文化伝統をテーマとした訪日プロモーションを実施するとともに、これらを活用した体験型訪日ツアーの充実を図る。（2014年の訪日外国人旅行者数1,341万人（前年比29.4％増）、2015年の訪日外国人旅行者数1973.7万人（前年比47.1％増）【観光庁】（P 2 3） <p>【今後考えられる対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京大会の機会を最大のチャンスと捉え、2016年-2020年の5年間を集中的取組期間とし、多様な文化事業を展開するなど、戦略的な発信に取り組む。【文化庁】 ・引き続き、上記の取組を実施。【観光庁】

<div>3. 国内への普及</div> <div>○国内普及の意義</div> <div><ul style="list-style-type: none">・グローバル化が進む中、「日本の美」という切り口で、日本人の価値観や歴史観、美意識、伝統などを身につけることは重要。・日本の伝統的な美について、日本人そのものの理解がなくなっていると感じる。・日本人は、外国の方から尋ねられても、もごもごとしてしまうところがある。また、外国で、日本の国の文化や歴史、哲学などに対して、ほとんど何も言わない。このため、我々自身も、もっと日本の美しさであり、歴史であり、文化を認識する必要があるのではないか。海外に対して、国民自身が自分の言葉で話し、発信できることも考えていく必要がある。</div>	<div></div>
<div>○学校における文化伝承（文化芸術鑑賞機会）の充実</div> <div><ul style="list-style-type: none">・学生は、有名な芸術家の名前は知っているが、実際の作品を鑑賞していない。学校教育における文化伝承について、学校現場の努力を期待したい。</div>	<div>【現状関連施策】</div> <div><ul style="list-style-type: none">・改正教育基本法の趣旨を踏まえて改訂された現行の学習指導要領では、各教科において伝統文化に関する内容の充実を図るなど、我が国や郷土の伝統・文化を受け止め、それを継承・発展させるための教育を推進している。【文科省】（P 2 4、2 5）・学校教育における芸術鑑賞の機会に関しては、学習指導要領において、例えば、中学校美術科の鑑賞の題材について、「美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること」とされており、小中高等学校における芸術教育の指導上の工夫として、芸術鑑賞の機会の充実を図っている。【文科省】（P 2 6）・また、「文化芸術による子供の育成事業」を実施し、一流の文化芸術団体が学校で公演を行う「巡回公演事業」や芸術家を学校に派遣し講演・実技指導を行う「芸術家の派遣事業」において、児童生徒が能楽などの伝統芸能、華道・茶道等の生活文化等に触れる機会の充実を図っている。（巡回公演事業：14種目1850公演程度、芸術家派遣事業：2500件程度）【文化庁】（P 2 7）</div> <div>【今後考えられる対応等】</div> <div><ul style="list-style-type: none">・今後も引き続き、現行の学習指導要領に基づき、小・中・高等学校における伝統や文化に関する教育を推進するとともに、芸術鑑賞の機会の充実を図る。【文科省】</div>

4. 保存・継承

○伝統工芸技術のアーカイブ

- ・伝統工芸に必要な様々な用具・道具がなくなりつつある。伝統工芸技術のアーカイブを行うべき。
- ・「The Museum of Intellifence」の設置を提案したい。手わざが生み出す叡智・情報とも言うべき伝統工芸技術を、日本が誇る最先端産業科学技術の誕生を可能にさせた土壌として位置づけ、その全体像を、「Intelligence of hand」として表現する。文明の近代化は、個人の天才的な「individual Intelligence」に頼ることが大きかったが、世代を超えて代々継承されてきた、「collective Intelligence」に注目したい。

【現状関連施策】

- ・選定保存技術の選定及び保持者、保存団体の認定（工芸の原材料の生産・製造等技術、工芸の制作用具の製作等技術の選定）

(平成28年3月23日現在)

選定保存技術	保 持 者		保 存 団 体	
	選定件数	保持者数	選定件数	保存団体数
70件	48件	56人	31件	33(31)団体

※保存団体には重複認定があるため、（ ）内は実団体数を示す。

※同一の選定保存技術について保持者と保存団体を認定しているものがあるため、保持者と保存団体の計が選定保存技術の件数とは一致しない。

※伝統工芸技術以外も含む。 【文化庁】（P28）

- ・重要無形文化財伝承事業及び文化財保存技術保存事業において、重要無形文化財保持団体及び選定保存技術保存団体が行う「原材料・用具確保」に対する補助を行っている。
重要無形文化財伝承事業（平成26年度補助実績額 316百万円の内数）
文化財保存技術保存事業（平成26年度補助実績額 320百万円の内数）【文化庁】（P28）

- ・無形文化財「わざ」の理解促進事業に係る工芸技術記録映画製作業務（工芸技術関係：53本）【文化庁】（P29）

【今後考えられる対応等】

- ・伝統工芸の制作用具について、実物資料及びそれらに関する情報を収集・整理してアーカイブ化することにより、日本の美の伝承を図る。 【文化庁】

（1）収集・整理

重要無形文化財保持団体及び選定保存技術保存団体等による実物資料及びそれらに関する情報の収集・整理

- ・制作工程で使用する用具類のリストアップ
- ・用具類の実物資料の収集・整理・デジタルデータ化
- ・用具の使用法や特徴に関する記録（動画等）の作成

（2）アーカイブ化・情報発信

伝統工芸の用具に関する情報の活用のため、文化遺産オンライン等にて国内外に公開・発信

（3）普及・啓発

公開事業（「わざと美展」や「日本の技体験フェア」等）による普及・啓発事業の実施

（4）その他

上記以外の新たな分野については、予算増による選定保存技術の分野の拡大等を図る。

	<p>○保存・継承に関するその他関連施策等について</p> <p>【現状関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none">我が国の文化財の本来の価値・魅力を外国人観光客に対して十分に伝えるため、2015年10月より「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」を実施し、英語での分かり易い解説表示のあり方・ポイント等を検討しており、報告書を取りまとめる予定。【観光庁、文化庁】（P 3 0）
5. 体制強化	
<p>○文化予算の増加、文化省の創設</p> <ul style="list-style-type: none">「文化大国日本」の実現のため、文化予算をフランス並みにすべき。これには、文化庁を文化省にし、器も一緒に大きくする必要がある。	<p>【現状関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none">平成27年度予算額1,038億円、平成28年度予算額1,040億円。【文化庁】

現 状 関 連 施 策 の 概 要

文化芸術の振興に関する基本的な方針 —文化芸術資源で未来をつくる— (第4次基本方針)ポイント

<今回の改訂のポイント>

- 対象期間を、2020年度までのおおむね6年間(平成27年度～平成32年度)
- 第3次方針策定時(平成23年2月)以後の諸情勢の変化を踏まえた文化政策の方針を明示(地方創生、2020年東京大会、東日本大震災等)
- 我が国が目指す「文化芸術立国」の姿を明示

【我が国が目指す文化芸術立国の姿】

- ✓ あらゆる人々が全国様々な場で創作活動への参加、鑑賞体験ができる機会の提供
- ✓ 2020年東京大会を契機とする文化プログラムの全国展開
- ✓ 被災地からは復興の姿を、地域の文化芸術の魅力と一体となり国内外へ発信
- ✓ 文化芸術関係の新たな雇用や産業が現在よりも大幅に創出

- 「文化芸術立国」の実現のための成果目標と成果指標を提示

【成果目標・成果指標】

日本の誇りとして「文化芸術」を挙げる国民の割合(2014年1月:50.5%→2020年に約6割へ)
地域の文化的環境に対して満足する国民の割合(2009年11月:52.1%→2020年に約6割へ)
寄付活動を行う国民の割合(2009年11月:9.1%→2020年に倍増へ)
鑑賞活動をする国民の割合(2009年11月:62.8%→2020年に約8割へ)
文化芸術活動をする国民の割合(2009年11月:23.7%→2020年に約4割へ)
訪日外国人旅行者数(2014年:1,341万4千人→2020年に2000万人へ)

第1 社会を挙げての文化芸術振興

- ✓ 地方創生:文化芸術、町並み等を地域資源として戦略的に活用し、地方創生の起爆剤に!
- ✓ 2020年東京大会:全国津々浦々で、あらゆる主体が『文化プログラム』を展開、多くの人々が参画
→2016年リオ大会後、オリンピック・ムーブメントを国際的に高める取組を実施し、機運の醸成
- ✓ 東日本大震災からの復興:文化芸術の魅力で、国内や世界のモデルとなる『新しい東北』の創造
- ✓ 文化芸術への公的支援を、戦略的投資と位置づけ、文化芸術振興への支援を重点化

第2 文化芸術振興に関する重点施策

文化芸術振興のための5つの重点戦略を定める。

重点戦略1:文化芸術活動に対する効果的な支援

- ✓ 芸術の水準向上に直接的な牽引力となる創造活動に重点的な支援を行うなど、我が国の顔として世界に誇れる文化芸術の創造を支援
- ✓ 日本と海外との多様な芸術交流など、分野の特性に配慮しつつ、戦略的かつ工夫を凝らした創造活動の推進
- ✓ 地域の多様な主体による文化政策の立案
- ✓ 国内外の芸術家を積極的に地域へ受け入れる取組への支援
- ✓ 文化芸術創造都市の全国的ネットワークの充実・強化、観光・産業振興との連携
- ✓ 日本版アーツカウンシル
- ✓ 障害者の芸術活動の振興
- ✓ 衣食住に係る文化をはじめ「くらしの文化」の振興
- ✓ 全国の公演や文化芸術イベント等の情報発信
- ✓ 2020年東京大会を見据えたファンドへの協力要請、民間企業等の活動の促進

重点戦略2: 文化芸術を創造し、支える人材の充実及び子供や若者を対象とした文化芸術振興策の充実

- ✓子供や若者の「創造力」と「想像力」の育成
- ✓学校における芸術教育の充実
- ✓雇用の増大を念頭に置き、文化芸術活動や施設の運営を支える専門人材育成・活用
- ✓指定管理者制度の理解の促進
- ✓伝統文化を支える技術・技能の伝承者に対する支援

重点戦略3: 文化芸術の次世代への確実な継承、地域振興等への活用

- ✓文化財の適切な状態での保存・継承
- ✓文化財の積極的活用による、各地域の地域振興・観光振興等
- ✓「日本遺産(Japan Heritage)」認定の仕組みの創設
- ✓歴史文化基本構想による地域の文化財の総合的な保存・活用
- ✓ユネスコの世界文化遺産や無形文化遺産への推薦・登録の積極的推進
- ✓水中文化遺産の保存・活用の在り方についての調査研究

重点戦略4: 国内外の文化的多様性や相互理解の促進

- ✓日本の芸術作品や芸術家・文化人等の海外展開
- ✓国内外の国際的芸術イベントの充実
- ✓文化施設や大学における文化発信・交流の活動・内容の充実
- ✓デジタルアーカイブ化(映画、舞台芸術、アニメ、マンガ、ゲーム、デザイン、写真、建築、文化財等)の促進や分野横断的整備の検討、我が国のメディア芸術を広く海外に発信
- ✓日本各地の文化創造と国際的発信の拠点づくりの推進
- ✓文化施設等をユニークベニュー(*1)として公開・活用し、MICE(*2)の誘致や開催
(*1) ユニークベニュー: 歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場。
(*2) MICE: Meeting(企業等のミーティング), Incentive(企業等の報奨・研修旅行), Convention(国際会議), Exhibition/Event(展示会・イベント)の総称。
- ✓我が国の高度な文化遺産保護に係る知識・技術・経験を活用した国際協力の推進
- ✓東アジア文化都市の取組、東アジアにおける若い世代の芸術家等の交流の推進
- ✓外国人に対する日本語教育の推進

重点戦略5: 文化芸術振興のための体制の整備

- ✓国立の美術館、博物館や劇場の機能の充実
- ✓『アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針』に基づく取組の推進
- ✓文化政策の形成に寄与する基礎的なデータの収集や各種調査研究
- ✓デジタル・ネットワーク社会に対応した著作権制度等の整備

第3 文化芸術振興に関する基本的施策

文化芸術振興基本法に定める文化芸術振興の基本理念に基づき、以下の事項ごとに具体的施策を定める。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 文化芸術各分野の振興 | 2 地域における文化芸術振興 |
| 3 国際交流等の推進 | 4 芸術家等の養成及び確保等 |
| 5 国語の正しい理解 | 6 日本語教育の普及及び充実 |
| 7 著作権等の保護及び利用 | 8 国民の文化芸術活動の充実 |
| 9 文化芸術拠点の充実等 | 10 その他の基盤の整備等 |

企業等による芸術文化活動への支援

1. 企業等による芸術文化活動への支援（メセナ活動）

民間による芸術文化振興は、CSR（企業の社会的責任）や社会貢献意識の高まりに加え、経済と文化の両輪で豊かな社会を創造するとの認識から、多くの企業等が取り組んでいます。企業が自ら文化事業を実施したり、芸術文化活動への資金提供のほか、人

材や製品など企業の経営資源を活かした支援が行われています。特に近年は、地域活性や次世代育成を目的として、比較的規模の小さな企業や地元企業がメセナ活動を展開しており、各地の文化振興に大きな役割を果たしています。

企業によるメセナ活動の実施状況

- ・実施企業数：333社（回答企業数：420社）
- ・活動総件数：2,928件（1社平均：8.7件）
- ・活動費総額：194億142万円（回答があった245社の総額）（1社平均：7,918万円）

企業財団によるメセナ活動の実施状況

- ・活動総件数：693件（回答財団数：189団体）（1財団平均：3.6件）
- ・活動費総額：645億9,540万円（回答及び公表データによる計167団体の総額）（1財団平均：3億8,679万円）

メセナ活動の実施方法

〔企業〕実施件数ベース（総件数：1,666件／複数回答）



〔財団〕実施件数ベース（総件数：693件／複数回答）



出典：企業メセナ協議会「企業・企業財団のメセナ活動実態調査（平成26年度）」
グラフ作成：NDC Graphics

2.（公社）企業メセナ協議会

（公社）企業メセナ協議会は、企業によるメセナ（芸術・文化支援）の活性化を目的に、平成2年に設立された中間支援組織です。企業メセナの社会的意義を高め、文化振興の基盤を整備するために、促進普及、情報発信、調査研究・提言、交流・協力連携、認定・顕彰、助成等を行っています。

主要事業として、芸術・文化活動に対する民間からの寄附を促す「助成認定制度」を運営するとともに、東日本大震災の直後に「GBFund」を設立し、被災地

の復興に寄与する芸術・文化活動を支援しています。同協議会への寄附は、個人の場合は所得控除又は税額控除、企業などの法人の場合には一般の寄附金とは別枠での損金算入が認められます。

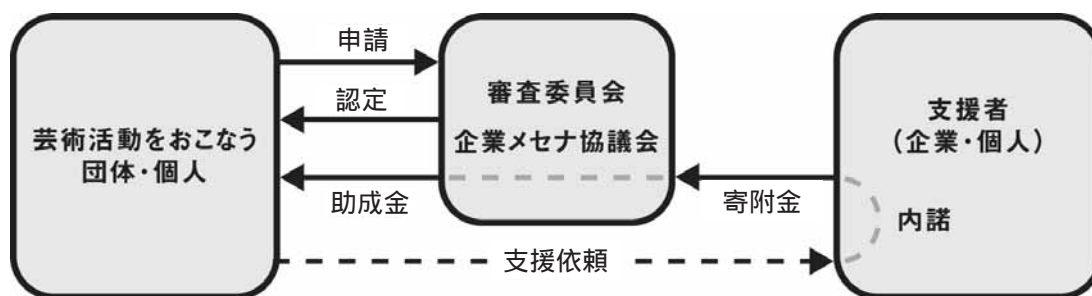
文化庁では「同協議会の顕彰事業「メセナアワード」において、国民の「文化力」「創造力」向上や日本文化の海外発信に貢献した活動に対し「文化庁長官賞」を授賞しています。

(1) 助成認定制度

同協議会では、芸術・文化活動に対する民間からの寄附を税制面から促進する目的で、平成6年から「助成認定制度」を運営しています。企業や個人が公益社団法人である同協議会の助成活動に対して寄附

を行うことで 税制優遇が受けられる制度です。芸術・文化活動を行う団体・個人が活動ごとに申請し、「助成認定」を受けた上で、協議会への寄附を助成金として受け取ることができます。

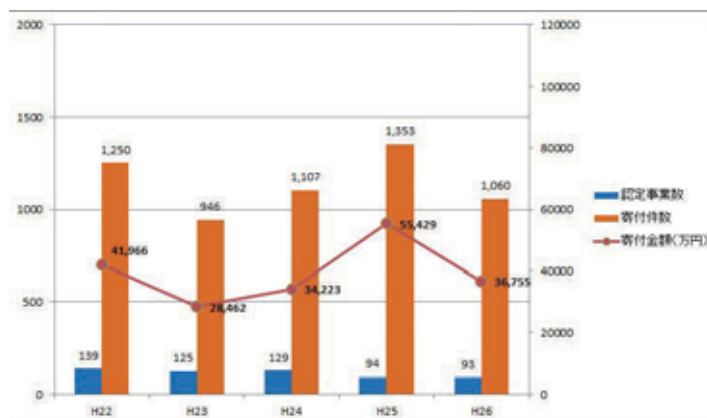
寄附者から助成認定活動を行う団体・個人への寄附金の流れ



【平成26年度実績】

認定芸術文化活動：93件，寄附件数：1,060件，寄附総額：3億6,755万円

【助成認定制度実績（過去5年分）】



(2) 2021 芸術・文化による社会創造ファンド(2021 Arts Fund)

2020年から先の文化創造に資するべく、地域文化振興及び芸術・文化による地域創造、芸術・文化を通じた国際交流及び日本文化の国際発信、芸術・文化及びこれを通じた社会創造を担う人材育成を重点として、寄附者の意向に応じた目的別ファンドを設置するとともに、目的を達成するための寄附コーディネートを行っています。

(3) 東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」

GBFund（ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド）は、平成23年3月23日に同協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンドです。趣旨に賛同する寄附者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援しています。特に郷土芸能や祭りが被災地の復興に果たす役割に注目し、「百祭復興プロジェクト」という枠を設けて重点的な支援も行なっています。平成26年度末には寄附総額が1億4千万円を超え、これまでに224件の活動を助成しています。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた 機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議について

【概要】

○我が国の地域色豊かで多様性に富む文化を通じて、国民一人一人が大会に幅広く関わりを持ち、参加するなど、日本全国での大会機運の醸成のため、関係府省庁、東京都、大会組織委員会を構成員とする関係府省庁等連絡会議を平成27年11月に設置。また、東京オリンピック・パラリンピック大臣の下で、機運醸成を図るための仕掛け作り等のアイデアを募るための有識者意見交換を同月から開始。関係機関が一体となって具体的な進捗を確保。

関係省庁等連絡・連携会議

議長－平田竹男 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局長

副議長－内閣官房知的財産戦略推進事務局長、文化庁長官

構成員－内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、総務省地域力創造審議官、総務省情報流通行政局長、外務省国際文化交流審議官、国税庁長官官房審議官、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長、農林水産省食料産業局長、経済産業省商務情報政策局長、観光庁次長、東京都生活文化局長、東京都オリンピック・パラリンピック準備局長、東京都産業労働局長、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長

オブザーバー－全国知事会事務総長、全国市長会事務総長、全国町村会事務総長、独立行政法人国際交流基金理事長、独立行政法人国立文化財機構理事長、独立行政法人国立美術館理事長、独立行政法人日本芸術文化振興会理事長、株式会社海外需要開拓支援機構代表取締役社長、独立行政法人日本貿易振興機構理事長、独立行政法人国際観光振興機構理事長

東京オリンピック・パラリンピック大臣と有識者の意見交換

平成27年11月に意見交換を開始。

■ 文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）（平成27年5月22日閣議決定）

・舞台芸術、美術品等の海外公演・出展、国際共同制作等への支援を充実するとともに、各専門分野の芸術家、文化人等による海外での講演、実演等、世界の人の日本文化への理解の深化につながる活動を展開する。

■ 経済財政運営と改革の基本方針2015（平成27年6月30日閣議決定）

・文化芸術立国を目指し、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」を踏まえ、文化芸術活動に対する効果的な支援、「日本遺産」など魅力ある日本文化の発信、メディア芸術の振興、子どもの文化芸術体験機会の確保、国立文化施設の機能強化、文化芸術の担い手の育成、文化財の保存・活用・継承等に取り組む。

事業概要

■ 目的・要旨

・我が国の文化財を広く海外に紹介するとともに、文化財を通じた国際交流に貢献するため、諸外国の文化関係機関と文化財の海外・協力推進に向けた調整等を実施する。

■ 事業内容・計画

◆ 文化財の海外交流の推進 H28予算額：8百万円

・諸外国の文化関係機関と文化財を通じた国際交流事業の実施に関する調整等を実施する。

◆ 文化財海外交流展 H28予算額：224百万円

・我が国の優れた文化財を諸外国に紹介することにより、我が国の歴史と文化に対する理解の増進と国際親善の推進に寄与することを目的として、文化財海外交流展を開催している。



日本古美術海外展「狩野派」展
米国・フィラデルフィア
フィラデルフィア美術館



日本古美術海外展「能狂言」展
オーストラリア・シドニー
ニューサウスウェールズ州立美術館

6

■ 文化財海外交流展 過去出品文化財（参考）



重要文化財
蓮池蒔絵経箱 平安時代



色絵婦人像 江戸時代

■ 文化財海外交流展の近年の実績※

平成28年度

「日本仏像展」(仮称)(イタリア・ローマ)

平成27年度

「日本の工芸未来派」展(米国・ニューヨーク)

平成26年度

「狩野派」展(米国・フィラデルフィア～H27年度)

「能狂言」展(オーストラリア・シドニー)

平成25年度

「日本文化」展(ベトナム・ハノイ)

平成24年度

「日本近現代工芸の精華」展(イタリア・フィレンツェ)



平成27年度海外展会場
ミュージアム・アーツ・アンド・デザイン

※昭和26年度開始以降、通算77回実施(欧米:62回、アジア:15回)

海外展「日本仏像展」(仮称)について

- 平成26年6月にイタリア共和国で行われた日伊首脳会談において、平成28年の日伊外交関係開設150周年等を契機として両国の文化・人的交流を飛躍的に拡大することで合意。その一環として、仏教美術に関する展覧会の開催を安倍総理からレンツィ首相に提案。
- 上記を踏まえ、本年夏にローマにあるクイリナーレ宮美術館において、仏教彫刻等を中心とした「日本仏像展」(仮称)を開催する。

◆ 展示の概要

日本仏教美術の特色をよく示し、かつ異なる文化を有する観覧者にも共感をもって眺められるような、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻作品等35点を選び展示する。

◆ 主催者・会期

主催者：文化庁、パラエクスポ財団（クイリナーレ宮美術館）
協力：イタリア文化財・文化活動・観光省、その他関係機関
会期：平成28年7月～9月（予定）

◆ 展覧会場



クイリナーレ宮美術館（イタリア共和国・ローマ）

◆ 出品予定文化財の例



重要文化財 伎楽面(乾漆)
(奈良時代)



重要文化財 釈迦如来像
／院賢作（鎌倉時代）



重要文化財 天王像
(平安時代)



重要文化財 毘沙門天像／湛慶作
(鎌倉時代)

メディア芸術は広く国民に親しまれ、新たな芸術の創造や我が国の芸術全体の活性化を促すとともに、海外から高く評価され、我が国への理解や関心を高めている。
また、メディア芸術は、我が国の文化振興はもとより、コンテンツ産業、観光、国際文化交流にも資するもの。

メディア芸術の一層の振興のため、「創造・発信支援」と「人材育成支援」を充実

創造・発信支援 831百万円(757百万円)

文化庁メディア芸術祭等事業 375百万円(355百万円)

メディア芸術祭

- ・メディア芸術の総合フェスティバルとして、優れた作品を顕彰
- ・メディア芸術祭20周年企画展の開催(拡充)
- ・障害者とメディア芸術に係る調査研究の実施(新規)

メディア芸術祭地方展

- ・地方において優れたメディア芸術作品の鑑賞機会を提供するため、総合的な展示・上映等を行う展覧会を開催

海外メディア芸術祭参加出展

- ・海外のメディア芸術関連フェスティバル等において、メディア芸術祭受賞作品をはじめとする我が国の優れた作品の展示・上映等を実施

メディア芸術連携促進等事業 337百万円(287百万円)

- ・作品の所在情報等(データベース)の運用・活用
- ・各研究機関等におけるアーカイブ化に係る取組みへの支援による相互連携(20件)(拡充)
- ・連携共同事業等(新領域創出、調査研究等)について、産・学・館(官)の連携・協力による実施

アニメーション映画製作支援 119百万円(116百万円)

- ・我が国の優れたアニメーション映画の製作活動に対する支援。(16作品)
- ・字幕・音声ガイド制作(バリアフリー映画10作品)(拡充)

人材育成支援 232百万円(232百万円)

メディア芸術人材育成等支援事業 232百万円(232百万円)

メディア芸術クリエイター育成支援事業 22百万円(16百万円)

- ・若手クリエイターが行うメディア芸術作品の創作活動を支援

若手アニメーター等人材育成事業 210百万円(210百万円)

- ・制作スタッフに若手人材を起用し、制作段階でオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)を組み込んだ実際のアニメーション制作現場における人材育成を実施

※ 27年度まで実施していた海外メディア芸術クリエイター等招へい事業(6百万)は、メディア芸術クリエイター育成支援事業に統合

平成27年度在外公館文化事業

【在外公館文化事業】

在外公館が管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を目的として外務省設置法に基いて、外交活動の一環として主催(共催)する日本文化紹介事業。

茶道デモンストレーション
(4-5月, ウズベキスタン)



市内中心部の日本庭園等に
政府高官や外交団等を招い
て茶会を開催。

タイ北部アニメ映画祭
(6月, チェンマイ)



通常あまり映画を見る機会
のない小中学校生を対象に日
本のアニメ映画を上映。170
0名が集まった。

そろばん大会
(8月, トンガ)



前国王の遺訓として20年以
上前から小学校で必修科目
としてそろばん教育が実施さ
れているトンガにおいて、小
学校3-5年生を対象とするそ
ろばん大会をトンガタブ島で
開催。

文化芸術交流事業：概要（14.5億円）

＊（ ）は平成27年度支出計画額

2

多様な日本の文化・芸術の海外への紹介

伝統芸能から現代アートまで幅広く、多様で豊かな日本の文化芸術を、公演・実演・ワークショップ、展覧会、映画・テレビ、翻訳・出版、講演・対話等の形で世界の人々に紹介します。各国・地域の状況に照らして事業計画を立て、特定の国・地域に向けては重点的かつ集中的に、広く世界各地に向けては継続的かつ効率的に、日本文化の紹介を行っています。更に、日本の文化・芸術に関する基礎情報をウェブサイト等を通じて世界に発信しています。

外交上重要な機会、国・地域への重点的な対応

日本・スイス国交樹立150周年、日・中米交流年等、外交上の重要な機会に合わせて訴求力のある大型日本文化紹介事業を実施しています。また、世界各地のニーズに合わせ、国内外の文化専門機関との連携・協力による舞台公演、展覧会等を通じ、質の高い日本文化発信に努めています。

広く全世界に向けた継続的・効率的な事業展開

多様なテーマで構成された海外巡回展、全12言語版の日本映画を揃えるフィルム・ライブラリー、劇映画やドキュメンタリーのDVD等、国際交流基金の文化リソースを活用した日本文化紹介事業を、広く全世界で継続的・効率的に実施しています。更に、日本のドラマやアニメ、ドキュメンタリー番組のテレビ放映、各国の国際図書展や国際美術展・建築展等への継続的な参加、日本に関する書籍の翻訳出版助成等、様々な形で日本文化を紹介しています。

文化・芸術を通じた世界への貢献

国を越えた専門家同士の交流や共同制作、共同作業を積み重ねることで、文化・芸術の各分野で強固なネットワークを構築します。また、日本の持つ経験と知見を活かして相手国の専門家の育成を支援し、国際文化交流が持続するための基盤を整えます。更に、災害復興、環境問題、文化遺産の保護・活用など世界共通の課題について、文化・芸術を通じて日本と外国の人々が共に考え、共感を深める場を創り出します。

双方向型・共同作業型の交流事業

日本と海外のアーティストとスタッフが長い時間をかけて協働する場を創出するとともに、その成果物としての舞台公演や展覧会を国内外で実施しています。このような共同制作のより一層の充実に向けて、美術館や博物館の学芸員、舞台公演のプレゼンターやプロデューサー等、様々な文化芸術分野における活動の担い手たちを招へい・派遣し、対話事業を継続的に実施することで、専門家同士のネットワーク作りや関係深化を促進しています。

世界共通の課題への取り組み

国境や言葉を越えた共感を生むことができる文化・芸術の力を活かし、世界と共に手を携えて、災害からの復興、環境問題等のテーマに向き合うことを目指し、事業を実施しています。

文化芸術交流事業：事例

3

日本の多様な文化・芸術の海外への紹介



北斎展
『北斎漫画』の出版200周年を記念し、パリのグラン・パレ国立ギャラリーで大規模な北斎展を開催。



ロジカル・エモーションー日本現代美術展
スイスとポーランドで開催した展覧会。「論理的な」要素と「情動的な」要素とが内在する作品をジャンル横断的に紹介。



国立劇場おきなわ琉球芸能公演
日・ボリビア外交関係樹立100周年記念事業。ボリビア、ブラジルで沖縄の多彩な舞踊・音楽・演劇の公演を実施。



水木一郎アニソン・ライブ
巡回展「キャラクター大国、ニッポン」展にあわせ、アニソン界の帝王・水木一郎氏がコスタリカでライブを実施。

文化・芸術を通じた世界への貢献



日韓国際共同制作『半神』
脚本・演出 野田秀樹氏による演劇『半神』をソウルと東京で上演。日韓両国の演劇人たちの共同制作により、感動的な舞台を創り上げた。



スーダン・レスリング専門家派遣
レスリング・コーチの砂川航祐氏をスーダンに派遣し、現地有力選手に対する実技講習を実施。国際的な選手を育成し、2020年東京オリンピック出場を目指す。



ASEANオーケストラ支援
ASEAN諸国のオーケストラ運営企画に携わるスタッフの招へい、日本のプロ・オーケストラ専門家の派遣を組み合わせ、東南アジアのオーケストラの水準向上に寄与。



RUN & LEARN: New Curatorial Constellations
東南アジアの若手キュレーターを対象に、ワークショップ、訪日研修、成果展を開催し美術交流を促進。

「2015年ミラノ国際博覧会」を活用した訪日プロモーション事業

○多くの来場者が見込まれ、国際的にも注目度の高い、2015年ミラノ国際博覧会において、訪日旅行需要を喚起するために訪日PR映像の放映、訪日セミナー、PRイベントなどを実施する。

全体概要

日本館概要

- 実施時期: 2015年5月1日～10月31日
- 出展内容: 食文化の多様性、伝統と革新が共存する食文化等
- 幹事省: 農林水産省、経済産業省
- 副幹事省: 国土交通省 ■参加機関: (独)日本貿易振興機構(JETRO)

ジャパンサローネ(別館)概要

- 実施時期: 2015年6月25日～7月13日 ■実施場所: ステツリーネ宮殿(万博会場から車で約30分)
- 実施内容: 7月11日のジャパンデーに合わせて、日本館の協賛企業や団体が、シンポジウムや商談会の場として活用するほか、官民一体となって幅広く日本の魅力を発信する。



VJ事業の概要

ジャパンサローネ(別館)への出展

- 出展時期: 6月25日(木)～7月13日(月)
- 出展規模: 展示スペース約12m² ほか
- 内容:
 - 全旅連や伝産協会と連携し、旅館のおもてなし体験や、伝統的工芸品の制作実演を行い、日本文化の中に息づく「美」を感じる旅について情報発信。
 - 伝統的工芸品の産地情報等の訪日PR映像の放映。
 - 訪日旅行セミナーの実施。



日本館への出展等

- ①日本館内イベント広場への出展
 - 出展時期: 8月12日(水)～16日(日)
 - 出展規模: ステージ約40m² イベントスペース約21m²
 - 内容:
 - 日本の美意識をテーマにブースを設営し、日本の誇る美しい自然の景観を素材に訪日プロモーションを展開。
 - けん玉や折り紙等を用い、日本文化を発信するステージイベントを行う。
- ②常設展示
 - 展示時期: 5月1日(金)～10月31日(土)
 - 展示内容: 日本館メインシアター入口で訪日プロモーション映像の放映。

国際共同製作映画支援制度について

○文化芸術振興費補助金(国際共同製作映画への支援)について

映画による国際文化交流を推進し、我が国の映画の振興に資するため、国際共同製作による映画の製作活動を支援する。

【予算額】

平成28年度予定額:208,000千円

※バリアフリー字幕・音声ガイド制作支援含む(1作品あたり上限:字幕1,000千円、音声1,000千円(計2,000千円))

【対象】

- ・上映時間1時間以上、補助対象経費1億円以上の劇映画及びアニメーション映画
- ・公益財団法人ユニジャパンにより「国際共同製作」と認定された映画

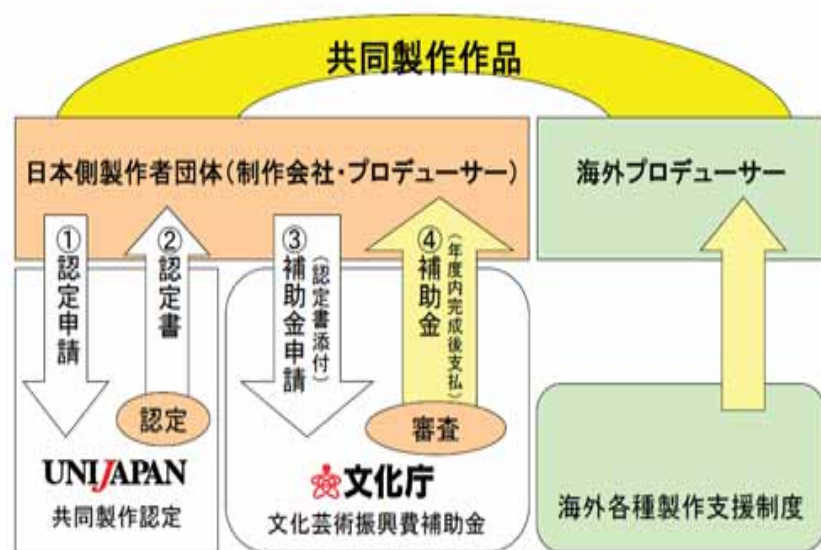
【補助額】

自己負担金の範囲内で、補助対象経費の5分の1以内の定額、ただし最高限度額52,000千円(バリアフリー字幕・音声ガイド制作費含む)

○国際共同製作認定について(公益財団法人ユニジャパン)

平成23年度より、経済産業省等が推進する国際共同製作に関連し、公益財団法人ユニジャパンが実施する国際共同製作映画の認定制度。我が国の映画製作者の国際展開を支援推進するため、日本の製作者団体が参加する映画の国際共同製作のうち、①日本の製作者の海外市場獲得に寄与し、②文化交流・人材交流を通じた産業のグローバル化や文化の質的向上に寄与する国際共同製作かどうかを審査し、認定する。

図解:国際共同製作支援制度—申請から支払までの流れ—



文化芸術振交費補助金実績(国際共同製作)

年度	応募件数	採択件数	支援額
H25年度	6 (実写5、アニメ1)	4 (実写3、アニメ1)	200,000千円
H26年度	13 (実写13、アニメ0)	5 (実写5、アニメ0)	149,984千円 (採択後、1作品辞退)
H27年度	8 (実写8、アニメ0)	5 (実写5、アニメ0)	201,094千円 (予定)

多くの人々に支持され親しまれている総合芸術であり、かつ海外への日本文化発信の有効な媒体である日本映画の振興を図る。

日本映画の創造・交流・発信

予算額 700百万円 (687百万円)

①日本映画製作支援事業【554百万円】

優れた日本映画の製作活動に対する支援
・字幕制作・音声ガイド制作(バリアフリー映画60作品) (拡充)

②ロケーションに係るデータベースの運営【16百万円】

各地フィルムコミッションの持つ情報を集約したデータベースを作成しインターネット上で公開

③文化庁映画賞【10百万円】

・日本映画界で顕著な業績をあげた者の顕彰
・優れた文化記録映画作品の顕彰及び上映会

④海外映画祭への出品等支援【67百万円】

日本映画の海外映画祭への出品に対する支援

⑤全国映画会議【15百万円】

映画界をとりまく課題等に関して関係者が意見交換を行うシンポジウムの実施

⑥アジアにおける日本映画特集上映事業【31百万円】

アジア諸国において日本映画の特別上映や人材育成につながる交流事業を実施

⑦「日本映画情報システム」の整備【7百万円】

日本映画に関する情報を集約したデータベースを作成しインターネット上で公開

自律的な創造サイクルの確立

人材の育成と社会的認知の向上

若手映画作家等の育成

予算額 161百万円 (161百万円)

①短編映画作品支援による若手映画作家の育成【120百万円】

ワークショップや実際の短編映画作品の制作を通して、若手映画作家等に映画製作に必要な技術・知識の習得機会を提供

②映画関係団体等の人材育成事業の支援【41百万円】

映画製作現場における学生の実習(インターンシップ)受入れの支援

映画フィルムの保存・継承

我が国の映画フィルムの保存・継承

東京国立近代美術館フィルムセンター



我が国の存在感を高める日本映画の振興と日本文化の理解の促進

国際交流基金

平成26年度補正予算「地域経済活性化に資する放送コンテンツ等 海外展開支援事業」(放送コンテンツ紹介事業)

提供番組数

- ・商業ベースでは日本コンテンツが放送されない96カ国の在外公館に対し、日本のドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等を提案。
- ・約70か国・120以上のテレビ局から800番組程度の放送希望あり。
→ 約70カ国に対し、延べ450番組以上を提供、40番組以上の外国語版を作成予定。

事業予算

- ・テレビ番組提供費約21億円、外国語版作成費約9億円

提供予定番組例

ドラマ「花嫁のれん」
(東海テレビ放送)



ドラマ「カーネーション」
(NHK)



アニメ「FREE!」
(朝日放送)



(C)おじこうじ・京都アニメーション／岩鷲高校水泳部

➤ 芸術家、文化人等を「文化交流使」に指名、世界の人々への日本文化への理解の深化、日本と諸外国における文化人のネットワークの形成・強化につながる活動を展開

日本の芸術家、文化人が一つもしくは複数の国に一定期間滞在し、日本の文化に関する講演、講習や実演デモンストレーション等を行う。

	氏 名	プロフィール	派遣国		氏 名	プロフィール	派遣国
平成 二十六 年度	岡田 利規	演劇作家・小説家	中国、韓国、タイ	平成 二十七 年度	青木 涼子	能×現代音楽アーティスト	アイルランド、フランス、ドイツ、デンマーク、イギリス、ハンガリー、イタリア
	櫻井 亜木子	琵琶演奏家	アメリカ、エルサルバドル、ブラジル、イギリス、イタリア、アルメニア		小野寺 修二	コンテンポラリーダンス・マイム・「カンパニーデラシネラ」主宰	ベトナム、タイ
	中澤 弥子	食文化研究者・長野県短期大学教授	フランス、ドイツ、ポーランド、ハンガリー、イタリア、スロバキア、イギリス		畠山 直哉	写真家	メキシコ、インド、フランス
	林 英哲	太鼓奏者	アメリカ、トリニダード・トバゴ、キューバ		藤田 六郎兵衛	能楽笛方藤田流十一世宗家	イギリス、フランス、韓国
	林田 宏之	CGアーティスト	クウェート、ヨルダン、レバノン、サウジアラビア、バーレーン、ベトナム、タイ		矢内原 美邦	振付家・劇作家・近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻准教授	シンガポール、マレーシア、韓国、タイ、ミャンマー、ベトナム、インドネシア、フィリピン、アメリカ
	平野 啓子	語り部・かたりすと	ドイツ、トルコ		柳原 尚之	料理研究家・「近茶流嗣家 柳原料理教室」副主宰	ニュージーランド、ブラジル、カナダ、アメリカ
	山井 綱雄	金春流能楽師	カナダ、アメリカ、フランス		吉田 健一	「吉田兄弟」・津軽三味線奏者	スペイン、オランダ、イタリア
	若宮 隆志	「彦十蒔絵」代表	イギリス、フランス、中国				



ワルシャワでの太巻き祭り寿司の実演の様子（中澤弥子氏：ポーランド）



スタンフォード大学のスタジオにて大太鼓マスタークラス
のワークショップを実施（林英哲氏：アメリカ）

現代日本文学翻訳・普及事業

我が国の優れた文学作品等を英語等に翻訳して諸外国において出版するとともに、優れた翻訳者を育成するための翻訳者育成事業や交流普及事業を一体的に実施する。

文字・活字文化振興法(平成17年7月29日法律第91号)

第九条 国は、できる限り多様な国の文字・活字文化が国民に提供されるようにするとともに我が国の文字・活字文化の海外への発信を促進するため、我が国においてその文化が広く知られていない外国の出版物の日本語への翻訳の支援、日本語の出版物の外国語への翻訳の支援その他の文字・活字文化の国際交流を促進するために必要な施策を講ずるものとする。

翻 訳 事 業

我が国の優れた現代日本文学等を海外に発信する。
行政事業レビュー「公開プロセス」における評価結果を踏まえ、平成27年度においては引き続き、新たな作品の選定は行わず、これまでに翻訳し未出版の作品について、その出版の推進を図る。

翻訳作品：これまで5回の選定により121作品(言語別延222作品)を選定

翻 訳 語：英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語等

出版済数：114作品(言語別延181作品)

未出版数：7作品(言語別延41作品)

交 流 普 及 事 業

各国の大学・図書館等へ翻訳作品を寄贈することにより、海外において我が国の文学に触れる機会を提供する

翻訳者育成事業

翻訳コンクールを行い優れた翻訳者を発掘、育成することにより、我が国の文学を海外に発信する土壌を醸成する。



<翻訳済作品>

赤穂浪士(上)(下)	大佛次郎
暗夜行路	志賀直哉
異人たちの夏	山田太一
真鶴	川上弘美
芥川龍之介 短編集	芥川龍之介
坊っちゃん	夏目漱石 等

我が国の文化を海外に発信・我が国文学水準の一層の向上

国際交流基金 翻訳出版助成事業

商業ベースに乗りにくい日本関連図書の外国語出版を促し、世界中のより多くの読者に普及

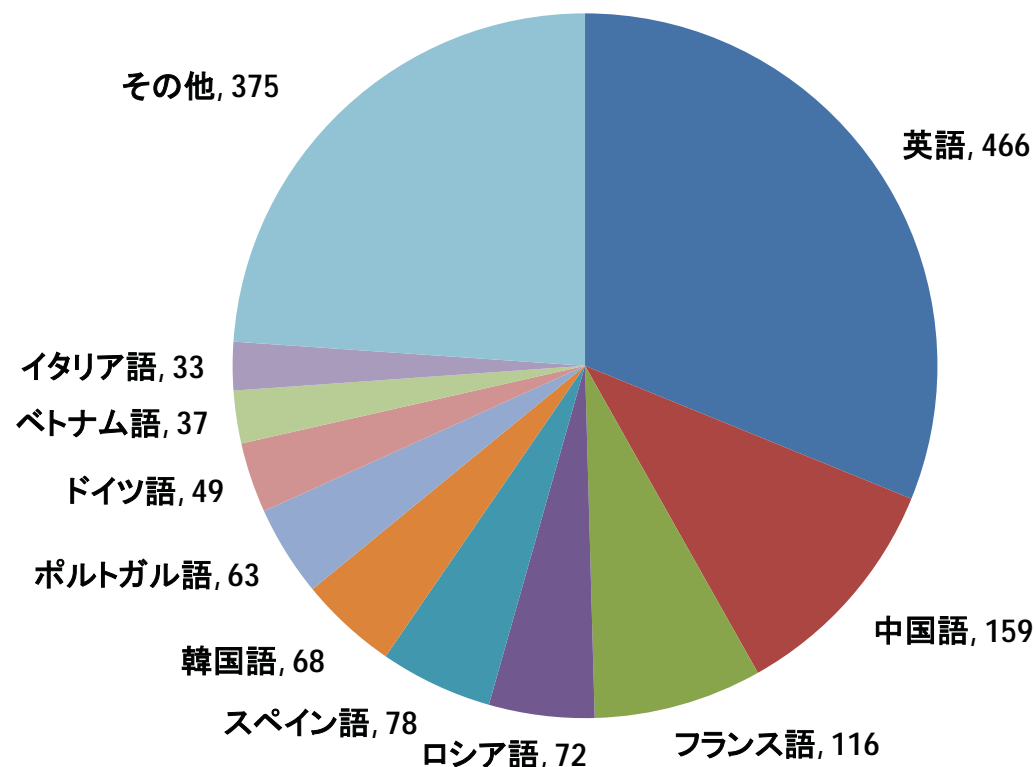
人文・社会科学及び芸術分野における日本語の図書を外国語で翻訳・出版を行う出版社に対し、経費の一部を助成する公募プログラム。



万葉集や源氏物語から村上春樹ほか現代文学に至るまで、1974年度以降51の言語による1,500点以上の翻訳出版を援助。

〔支援図書(例)〕

よしもとばなな『みずうみ』[ベトナム語、ノルウェー語]
江國香織 『きらきらひかる』[イタリア語]
村上春樹 『1Q84』[ベトナム語、ギリシャ語、スペイン語 他]



初等中等教育の英語教育の推進に係る取組

(平成27年度予算額 709,601千円)

平成28年度予算額 741,034千円

小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業

1. 英語力向上・教育課程の充実

- (1) **英語教育強化地域拠点事業** 84,628千円(89,267千円)
 ○小・中・高を通じて「英語を使って何ができるようになるか」の観点から教育目標を設定し、次期学習指導要領の改訂に向けた先進的な取組を支援し、実践例を全国に普及。中間評価を実施し、研究成果を教育課程の検討に活用。(委託先:25件)
- (2) **外国語活動・外国語教育の教材整備** 138,871千円(142,886千円)
 ○小5・6年の英語教科化に向けた新たな教材開発(上記(1)で検証、中教審の審議等を踏まえた改訂)
 ○小3・4年の外国語活動早期化に向けた新たな補助教材開発(〃)
 ○現行の小5・6年の外国語活動の補助教材(Hi, friends!)の作成・配布
- (3) **外部試験団体と連携した英語力調査事業** 62,609千円(116,325千円)
 ○高3・中3生の英語力(4技能)を把握分析・検証。学校での指導や生徒の学習状況の改善に活かす目的で民間試験団体と連携し実施。
 ○H26より高3生、H27より中3生を対象に調査。H28は中3生のみ対象。
- (4) **中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究** 52,582千円(新規)
 ○中・高等学校における英語教育の抜本的改善のため、先進的な指導方法・体制、ICT教材・指導資料作成等の実証研究を実施。
 (委託先:大学等3機関(教育委員会・学会・研究会等と連携))

2. 教員等の資質・能力の向上、体制整備

- (5) **英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究** 30,560千円(58,113千円)
 ○大学及び教育委員会・学校等との協働によるコア・カリキュラム等の開発・実証。
 ○今後、①小学校教員や②中・高校の英語教員の養成、③現職教員の研修の改善・充実に活用。
- (6) **外部専門機関と連携した英語指導力向上事業** 263,470千円(303,010千円)
 ○①国が外部専門機関と連携して、小・中・高の「英語教育推進リーダー」や外国人指導助手(ALT)リーダーを養成、②各教育委員会の「英語教育改善プラン」の策定を推進し、①の国の研修を修了したリーダー等を活用した自治体の研修を支援。(委託先:47都道府県・政令指定都市等)
- (7) **小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施** 104,810千円(新規)
 ○小学校英語教科化のため、小学校教員の専科指導が可能となるプログラムの開発及び講習実施を大学等に委託(委託先:47機関)。
 ○プログラムを「免許法認定講習」として認定し、小学校教員の中学校英語免許状取得を促進。
- (8) **JETプログラム充実・発展のための式典等** 3,504千円(新規)
 ○JETプログラム30周年記念式典等の実施

3. 関連する事業

- (1) **教員定数の改善**
 ○小学校英語の教科化等に向けた教員定数の加配措置。
- (2) **補習等のための指導員等派遣事業** 479,736千円(新規) 財務課予算額(案)に計上
 ○小学校英語の早期化・教科化、中・高等学校英語の充実等に向けて、専門性の高い非常勤講師(340人)及び英語が堪能な外部人材(825人)等の活用を促進。
- (3) **地域における青少年の国際交流推進事業** 30,005千円(新規) 青少年教育課予算額(案)に計上
 ○青少年の国際交流による英語の発信力を強化。(イングリッシュ・キャンプなど)

社会総がかりで行う高校生留学促進事業

補助事業（定額補助）

平成28年度予算額: 187百万円(平成27年度予算額: 291百万円)

高校生留学促進事業

※補助対象: 都道府県(47 都道府県)

132百万円 (H27: 222百万円)

地方公共団体や学校、高校生の留学・交流を扱う民間団体等が主催する海外派遣プログラムへの参加に対し、留学経費を支援する(原則として2週間以上1年未満であり、学校単位での応募とする)。

●支援金額: 1人10万円×1,300人

グローバル人材育成の基盤形成事業

55百万円 (H27: 69百万円)

①グローバル語り部の派遣

13百万円 (H27: 21百万円)

※補助対象: 都道府県(30都道府県)

かつての帰国生や留学経験者、海外勤務経験者、国際機関等の勤務経験者を留学フェア等や小・中・高校等へ派遣し、体験講話の機会を設け、子供たちの国際的視野の涵養を図る。

また、都道府県内にコーディネーターを配置し、グローバル語り部の派遣に関する関係機関との調整や、留学に関する各種相談に応じる。



留学フェア等や学校に派遣

②異文化理解ステップアップ事業

31百万円 (H27: 31百万円)

※補助対象: 民間団体(2機関)

日本語を学ぶ外国人高校生を、高校生の留学・交流を扱う民間団体を通じ、日本の高等学校に短期招致することにより、受入先の高校生の異文化体験や相互コミュニケーション、学校教育における国際交流等の機会を確保する。

●対象: 115人(前年度同)、通訳なしで高校生等とコミュニケーションが取れる程度の日本語能力を有する者。

受入学校以外での外国人高校生との交流の場の確保

③留学フェア等の開催

※補助対象: 都道府県(30都道府県)

11百万円 (H27: 17百万円)

高校生留学等を推進するためのフェアを各都道府県内で開催し、安心・安全な留学への関心を喚起し、留学への機運を醸成するとともに、留学後の進路を見据えた大学フォーラム、キャリアフォーラムを開催する。

【メニュー例】

- 高校留学や海外大学進学に関する情報を有する民間団体等による留学相談
- 各国大使館による外国の魅力の紹介
- 国際化に力を入れる大学とのマッチング
- 企業のリーダーによる講義 等

予算外の取組

○民間の寄附金を原資とした官民協働による海外留学支援 ○各都道府県の留学支援又は留学環境整備に対する取組への助言 等

若者の海外留学促進の取組について

平成28年度予算額:88億円(平成27年度予算額:92億円)

海外留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」

- ・留学の魅力や方法について情報を提供することにより、日本全体で若者や日本の海外留学の機運を醸成する。
- ・政府だけではなく、官民協働のもと社会総掛かりで取り組む。
- ・2020年までに日本人留学生倍増:大学生等6万人⇒12万人、高校生3万人⇒6万人
「意欲と能力のある全ての若者に、留学機会を」



大学等の海外留学支援制度(国費による支援) 87億円

- ・学位取得を目指し、海外の大学院に留学する日本人学生を支援(大学院学位取得型)。
- ・大学間交流協定等に基づき海外の高等教育機関へ短期留学する日本人学生及び我が国の高等教育機関で受け入れる短期留学生を支援(協定派遣型・受入型)。

○大学院学位取得型

【H26】	【H27】	【H28】
250人	⇒ 270人	⇒ 270人

○協定派遣型

【H26】	【H27】	【H28】
20,000人	⇒ 22,000人	⇒ 23,000人

○協定受入型

【H26】	【H27】	【H28】
5,000人	⇒ 7,000人	⇒ 6,000人

官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～ (民間資金による支援)

- ・民間の協力を得て、実社会で求められる資質・能力の育成を社会全体で集中的に支援するための官民が協力した新たな海外留学支援制度。
- ・産学官が連携した支援コースを設定し、留学の質の向上、留学の目的明確化のため、事前・事後研修、留学中のプロジェクト、留学後のコミュニティを提供。
- ・プログラムの実施に要する経費は、民間資金を活用(目標:200億円)。

○支援企業・団体 181社・団体 110.7億円(平成28年3月14日現在)

○派遣留学生の応募・選考結果

第1期～第3期 計983人の学生を採用し、順次海外留学開始

第4期 申請:1,415人(260校) → 採用:437人(141校)

第5期 申請:1,655人(232校) → 現在選考中

○高校生コース 第1期 303人の生徒を採用し、順次海外留学開始

第2期 申請:1,750人(738校) → 現在選考中

○地域人材コース

平成27年度 採択地域事業: 11地域事業

平成28年度 採択地域事業: 3地域事業(平成28年3月現在)

日本人の海外留学促進事業 0.8億円

日本人の海外留学者数を大幅に増加させるため、大学等と連携して海外留学促進のための広報活動を行うとともに、日本人学生と若手社会人及び外国人留学生等との様々な交流の機会を設け、若者の海外留学の機運を醸成する。

趣旨

「文化芸術立国」の実現のために、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の機会を活かすとともに、それ以降も多様な文化芸術活動の発展や、文化財の着実な保存・活用を目指し、組織委員会、関係省庁等と連携して、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進。

【文化庁の取り組む文化プログラム「文化カプロジェクト(仮称)」の数値目標】

・20万件のイベント ・5万人のアーティスト ・5000万人の参加 ・訪日外国人旅行者数2000万人に貢献

文化庁が進める取組の三つの枠組み

1. 我が国のリーディングプロジェクトの推進

日本各地での文化芸術によるレガシー創出に向けた基盤的な取組を推進（文化芸術プロデューサー人材等の育成、新たな文化×産業の拠点の形成、日本文化の再発見とその魅力の発信）

2. 国が地方公共団体、民間とタイアップした取組の推進

日本遺産、文化芸術による地域活性化・国際発信事業、劇場音楽堂等活性化事業等を支援

3. 民間、地方公共団体主体の取組を支援

地域の祭りをはじめ、我が国の多様な文化芸術を継承、発展させる全国津々浦々の文化芸術に関する取組を支援

訪日プロモーション(ビジット・ジャパン事業)の概要

重点市場(20市場)

韓国・中国・台湾・香港・タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナム・
インド・豪州・米国・カナダ・英国・フランス・ドイツ・イタリア・ロシア・スペイン

現地消費者向け事業

○海外広告宣伝



新聞、旅行雑誌、WEB、映像等を通じ、現地消費者向けに訪日観光の魅力を発信

○海外メディア招請



現地メディアを日本の観光地へ招請し、帰国後、外国人目線による記事掲載、番組放映等により訪日観光の魅力を発信

○旅行博出展・イベント開催 〈現地消費者向け〉



海外旅行に関心を持つ現地消費者へ訪日観光の魅力を旅行博等でPR、併せて訪日旅行商品の即売を支援

現地旅行会社向け事業

○海外旅行会社招請 ○ツアー共同広告



現地旅行会社等が一堂に集まる旅行博への出展、商談会等の開催



現地旅行会社を日本の観光地へ招請し、新たな訪日旅行商品の造成を働きかけ



日本政府観光局の訪日観光PRと旅行会社の訪日旅行商品広告を共同で実施し、販売を促進

在外公館等連携事業



◎在外公館等と連携し、オールジャパンの体制による訪日プロモーションを展開

[イベント開催、旅行博出展等]

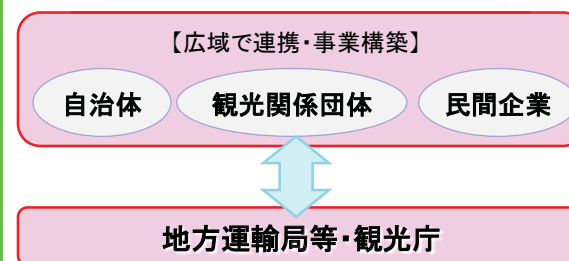
官民連携事業



◎海外にネットワークを有する企業と連携し、「日本ブランド」ファンへの訪日プロモーションを展開

[現地店舗・ネットワークを活用した訪日キャンペーン、SNS・WEBを活用したプロモーション等]

地方連携事業



◎広域で連携した訪日プロモーションを、地域と国が協同で実施

[旅行会社招請、メディア招請、旅行博出展等]

伝統文化の尊重に関する規定

○ 教育基本法（抄）（※平成 18 年改正で新設）

（教育の目標）

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○ 学校教育法（抄）（※平成 19 年改正で新設）

第二十一条 義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（平成十八年法律第百二十号）第五条第二項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

三 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

学習指導要領における伝統文化に関する内容の充実について

改正教育基本法の趣旨を踏まえ、現行学習指導要領においては、次のような伝統文化に関する内容の充実を図っている。（小学校では平成23年度、中学校では平成24年度より全面実施）

① 国語科

小学校で神話・伝承に関する学習（低学年）や古典に関する学習（低・中学年）を新設するとともに、中学校では、古典に関する内容を各学年に明確に位置付けた。

② 社会科

小学校で国宝などの文化遺産、中学校での江戸時代の教育・文化や近現代史など歴史学習を充実した。

③ 算数科

小学校第4学年において、「そろばんを用いて、加法及び減法の計算ができるようにすること」を新たに位置付け、指導の充実を図った。

④ 音楽科

中学校において、民謡・長唄などの我が国の伝統的な歌唱を取り上げるように新たに示すとともに、和楽器については、3年間を通じて1種類以上の楽器を用いる趣旨を明確にした。

⑤ 美術科

我が国の美術についての学習を重視し、中学校第1学年の鑑賞領域に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し、3年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにした。

⑥ 保健体育科

中学校第1・2学年において、我が国固有の伝統及び文化である武道の必修化を行った。

⑦ 技術・家庭科

中学校において、和服の基本的な着装を扱うことができることを新たに示した。

学習指導要領における美術館等との連携に関する主な記述 (抜粋)

小学校学習指導要領（平成20年3月告示）

第7節 図画工作

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 2 第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。
(5) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。

中学校学習指導要領（平成20年3月告示）

第6節 美術

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 2 第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする。
(2) 各学年の「B鑑賞」の題材については、日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。

文化芸術は、子供たちの育成に大きな力となる。

- 一流の文化芸術団体や芸術家による質の高い様々な文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供することは **子供たちの豊かな感性・情操や、創造力・想像力を養う**上で大きな効果。
- 芸術家を教育現場に派遣して行う対話や創作、表現に係る体験活動は、**子供たちの思考力・判断力・表現力等の向上や、自己肯定感、社会性、責任感等の育成**に大きな効果。

■ 義務教育期間中の子供たちに対し、国として、質の高い文化芸術に触れる機会を、2回（「現代実演芸術」「伝統芸能」各1回）以上提供する。

■ より多くの文化芸術の鑑賞・体験が可能となるよう地方公共団体への働きかけなどを行う。将来的には、地方公共団体の自主事業等も含め、義務教育期間中毎年1回は、文化芸術の鑑賞・体験ができる環境を整えることを目指す。

1 巡回公演事業

- 国が一流の文化芸術団体を選定し、小学校・中学校等において実演芸術公演を実施。
- 事前に児童・生徒が自ら参加する体験型の活動（ワークショップ）を実施。
- 合同開催を奨励し、効率的により多くの児童・生徒に実演芸術の鑑賞・体験機会を提供。

- 公演種目 14 種目
- 巡回公演数 1,850 公演程度



2 芸術家の派遣事業

- 個人又は少人数の芸術家が学校を訪れ、講話、実技披露、実技指導を実施。
- 国、教育委員会と地域のNPO法人等が連携し、学校と芸術家個人や小規模グループをコーディネート。

- 学校公募型 1,400 件程度
- NPO法人等提案型 1,100 件程度



3 コミュニケーション能力向上事業

- 学校において、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施。
- 芸術家による実技披露に加え、児童・生徒が小集団で協働して、課題解決に取り組む活動を実施。
- 創作や小集団での話し合い等のプロセスを重視。

- 学校公募型 100 件程度
- NPO法人等提案型 100 件程度



豊かな創造力・想像力を養う

思考力やコミュニケーション能力など
社会人としての素養を身につける

将来の芸術家や観客層を育成し、
優れた文化芸術の創造につなげる

我が国の長い歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた貴重な国民の財産である、芸能や工芸技術の無形文化財、風俗慣習や民俗芸能等の民俗文化財、文化財の修理や用具の製作・修理等の文化財の保存のために欠くことのできない文化財保存技術の確実な伝承等を図る必要がある。



重要無形文化財「能楽」

(1) 無形文化財の伝承・公開 606百万円(606百万円)

重要無形文化財の保持者や保持団体等が行う伝承者養成等を支援するとともに、重要無形文化財の保存のための公開事業に対して補助を行う。



重要無形民俗文化財
「京都祇園祭の山鉾行事」

(2) 民俗文化財の伝承等 270百万円(250百万円)

地方公共団体、民俗文化財の所有者・保護団体等が行う民俗文化財調査、重要有形民俗文化財の保存修理や防災設備の設置、重要無形民俗文化財の伝承者養成や用具の修理・新調等に対して補助を行う。

(3) 文化財保存技術の伝承等 398百万円(390百万円)

選定保存技術の保持者や保存団体等が行う伝承者養成、わざの錬磨、原材料・用具の確保等に対して補助等を行う。



選定保存技術「表具用手漉和紙(宇陀紙)製作」
保持者 福西正行氏

無形文化財「わざ」の理解促進事業

28年度予算額 83百万円(27年度予算額 83百万円)

《目 標》 ◇文献、写真等では理解が難しい無形文化財の「わざ」に対する情報提供を行うことにより国民の理解を深める。

◇記録の多言語化を図ることにより、外国人に我が国の伝統文化を紹介して理解を深めてもらう。

無形文化財「わざ」の理解促進事業

- (1)重要無形文化財(工芸技術)保持者等の技術を記録映画を作成(作成本数 4本)
- (2)工芸技術記録映画のデジタル化、英語版を作成
- (3)文化庁所有で劣化が著しい重要無形文化財(芸能)保持者等の公演・芸談の映像記録、音声記録のデジタル化

【公開手段】

都道府県・市町村の公立図書館・大学共同利用機関等にDVD配布、「日本のわざと美」展(工芸)、HP掲載

芸能関係

文化庁において、昭和30年～50年頃までに作成した貴重なフィルム、レコード、オープンリールの記録は劣化が進行しているためデジタル化

【製作状況】映像 317本
音声 1,965本



工芸技術関係

重要無形文化財保持者等の「わざ」を記録映画として製作

【製作状況】53本
(アナログ6本、
英語版未作成17本)



文化財等の案内表示・解説等の充実のための取組 文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議

- 文化財をただ見て終わってしまうのではなく、文化財の**本来の価値・魅力**をわかりやすく**外国人観光客に伝えられるような環境整備を促進**することが必要。
- そのため、現在文化庁と観光庁が合同で、「**文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議**」を実施しており、報告書を取りまとめる予定。

簡単な英語の説明をした案内板しかない例



外国人にも分かりやすく解説した英語の案内板がある例



文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議

○ 有識者委員(50音順)

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| ・デービット・アトキンソン | 小西美術工藝社 社長 |
| ・岩橋 克二 | 神社本庁 広報国際課長 |
| ・落合 偉洲 | 久能山東照宮代表役員 |
| ・エリック・スミス | 自治体国際化協会JETプログラム事業部
プログラムコーディネーター |
| ・高野 明彦 | 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系
教授 |
| ・野田 博明 | 全日本社寺観光連盟 理事 |
| ・萩村 昌代 | 日本観光通訳協会 会長 |
| ・平岡 昇修 | 東大寺 執事長 |
| ・三重野 真代 | 京都市 産業観光局 観光MICE推進室
MICE戦略推進担当部長 |
| ・マリサ・リンネ | 京都国立博物館 フェロー国際交流担当 |

○ 会議実施スケジュール

- | | | |
|-----|----------------|---------------------------|
| 第1回 | 平成27年10月14日(済) | 委員へのヒアリング |
| 第2回 | 平成27年12月16日(済) | 外部へのヒアリング
報告書骨子についての議論 |
| 第3回 | 平成28年 2月22日(済) | 報告書案についての議論 |

○日本人は解説なしで理解できても、**日本の歴史を知らない外国人は、解説がないと理解できない。**

○本来の価値・魅力を理解してもらうために、適切な解説が必要。(金閣寺は日本文化の何を象徴しているのか 等)



日本和太鼓YAMATO北京音乐会 & 中日集中交流月开幕式

10月13日~10月14日 19:30开演 9剧场 行动剧场
主办：日本国际交流基金会
协办：日本国驻华大使馆 中国人民对外友好协会
赞助：全日空航空公司
更多资讯请查看：新浪微博@北京日本文化中心



日本岩手县民俗艺能 展示表演与讲座 ~后311期重建原动力的乡土艺能~

10月17日 19:00开演、10月18日 14:00开演 中华世纪坛 当代艺术馆剧场
主办：日本国际交流基金会
协办：日本国驻华大使馆 中国人民对外友好协会
更多资讯请查看：新浪微博@北京日本文化中心



「秋の文化祭」动漫展 — Diana Garnet 迷你演唱会

10月24日 ①11:00开演 ②14:00开演 光耀东方广场 国贸国际会展中心
主办：日本国际交流基金会
协办：日本国驻华大使馆 北京动卡动优文化传媒有限公司
更多资讯请查看：新浪微博@北京日本文化中心

中日集中交流月

日本国驻华大使馆将于2015年10月至11月举办“中日集中交流月”，届时将与各文化相关机构共同集中举办中日之间丰富多彩的交流活动，欢迎大家来参加！

在中国日本国大使馆では、2015年10月から11月にかけての時期を「日中交流集中月間」と称し、当該時期に各文化関連機関と共に、様々な日中間の交流イベントを集中的に実施します。ぜひ皆様ご参加下さい！



NHK交响乐团 中国北京公演

10月31日 19:30开演 国家大剧院音乐厅 主办：NHK交响乐团北京公演实行委员会 中国对外文化交流协会 共同主办：文化厅 日本国际交流基金会 特别赞助：全日空航空公司



四季歌 -- 芹 洋子 中日友好访华纪念北京演唱会

11月13日 18:30开场 19:30开演 中央民族歌舞团民族剧院
特别赞助：日本航空公司 松下电器（中国）有限公司
协同赞助：三菱商事（中国）有限公司
协力：日本国驻华大使馆
后援：一般社団法人 日中协会



日本电影周

11月2日~11月6日 ①10:00开演 ②14:00开演 大使馆新闻文化中心
主办：日本国驻华大使馆
详情请咨询：<http://www.cn.emb-japan.go.jp/index.htm>
日本国驻华大使馆 搜索

<http://www.cj-jizhong.com>

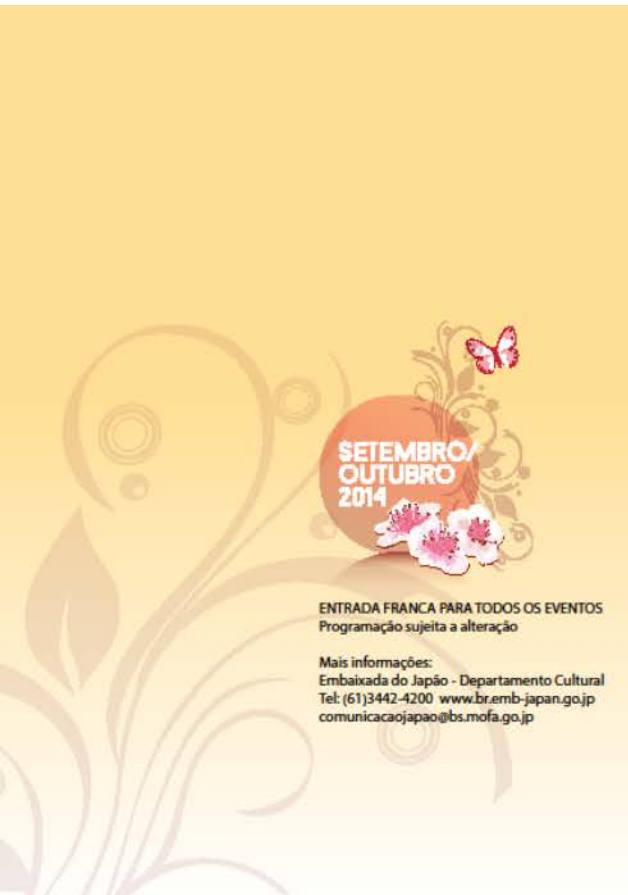
中日集中交流月

搜索



高仓健回顾展

11月下旬~12月初旬 尤伦斯当代艺术中心 北京外国语大学
主办：日本国际交流基金会
协办：日本国驻华大使馆 尤伦斯当代艺术中心
北京外国语大学 北京日本学研究中心
更多资讯请查看：新浪微博@北京日本文化中心



02 a 10 de setembro

1. Exposição de Cerâmica Tradicional do Japão

Exposição de peças da tecnologia tradicional do Japão, chamada de Yakishi (Densificação), com mais de 2000 anos de história. Estão expostas as belezas naturais das argilas brasileiras com as tecnologias do Japão que podem explorar as potencialidades das terras brasileiras.

Visitação: todos os dias: 08h às 20h
Demonstração de torno: 06 de setembro, 10h, 14h e 16h
Local: Galeria de Arte da LBV - Legião da Boa Vontade, SGAS 915, lotes 75/76
Informações: Masayuki Honjo - (62) 9303-2391
honjo5562@gmail.com

09 e 10 de setembro

2. Exposição de Ikebana Sogetsu 2014

Exposição de composições florais dos membros da Ikebana Sogetsu de Brasília, São Paulo e Chile, e participantes do I Encontro Sogetsu Brasil 2014.

Visitação: todos os dias: 08h às 20h
Local: Galeria de Arte da LBV - Legião da Boa Vontade, SGAS 915, lotes 75/76
Informações: (61) 3248-0579
ikebana@ikebanasogetsu.com.br

08 de setembro (segunda-feira) 17h às 19h

3. Demonstração: "Ikebana com o Poder das Flores"

Demonstração de Ikebana das mestras Suikei Sakaguchi e Koel Sawada, da Escola Sogetsu do Japão.
* Vagas limitadas

Local: Auditório Austregesilo de Athayde da LBV - Legião da Boa Vontade, SGAS 915, lotes 75/76
Informações: (61) 3248-0579 -
ikebana@ikebanasogetsu.com.br

17 de setembro (quarta-feira), 20h

4. Concerto: Sumiko Goto e Grupo de Koto Contemporâneo

Várias vezes premiada pela Agência de Cultura do Japão pelo pioneirismo na criação de arranjos contemporâneos para instrumentos tipicamente japoneses, a mestra Sumiko Goto contabiliza 350 apresentações em mais de 54 países visitados. Aos 82 anos, se apresenta pela primeira vez no Brasil aonde vem acompanhada de mais cinco tocadoras.

Local: Teatro do CCBB - Centro Cultural do Banco do Brasil - SCES Trecho 2, lote 22
Classificação indicativa: livre
Informações: Embaixada do Japão - (61) 3442-4200

20 de setembro e 18 de outubro, 09h às 11h

5. Arte da Espada Samurai

O Instituto Niten realizará um workshop aberto ao público e gratuito. Venha conhecer a arte da espada samurai aplicada aos dias atuais, conciliando disciplina, concentração, equilíbrio e saúde para a mente e o corpo.

Local: CASSAB - Clube de Assoc. da Aeronáutica de Brasília
SCES - Trecho 2 lote 69, ao lado do Clube do Rocha
Informações: www.niten.org.br/brasil -
(62) 8422-4969

27 de setembro (sábado), 16h às 18h

6. Palestra sobre o Artesanato Tradicional do Japão

Palestra ilustrativa sobre como materiais típicos e técnicas tradicionais de cada região se tornaram utensílios práticos e altamente criativos, hoje considerados obras de arte. A palestra ministrada por Masanori Moroyama, curador do Museu Nacional de Arte Moderna de Tóquio será uma prévia da exposição Artesanato do Japão - Tradições e Técnicas (vide evento 8).

Local: Teatro do SESC 504 Sul - W3 Sul
Informações: Embaixada do Japão - (61) 3442-4200

01 a 07 de outubro

7. Mostra de Cinema Juvenil Japonês

Exibição de 11 (onze) longa metragens produzidos no Japão, entre 1996 a 2011, com foco nas amizades, dilemas e outras questões de adolescentes e estudantes juvenis. Uma oportunidade para que todos os adultos possam recordar dos tempos da juventude...

Local: Cine Brasília - EQS 106/107 Sul
Programação e sinopses: www.br.emb-japan.go.jp
(a divulgar próximo ao período do evento)

09 a 29 de outubro

8. Exposição: "Artesanato do Japão: Tradições e Técnicas"

A exposição traz um recorte do artesanato do Japão, sob o olhar das tradições e técnicas de reconhecidos artesãos japoneses, compartilhando a habilidade e a criatividade de seus trabalhos. O acervo traz utensílios criados ao longo dos anos e usados na vida cotidiana em materiais como cerâmica, tecido, laqueado, metal, madeira e bambu, vidro e papel.

Visitação: Todos os dias, 08h às 18h
Local: SESC 504 Sul - W3 Sul
Informações: Embaixada do Japão - (61) 3442-4200
Agendamento de visitas escolares: SESC 504 Sul
(61) 3217-9123 / 3217-9101

12 de outubro (domingo), a partir das 09h

9. Festival da Canção Japonesa de Brasília (FEANBRA) 3º Festival de Karaoke

26º Concurso da Canção Japonesa

No Festival de Karaoke, os participantes poderão utilizar os recursos do Videokê e não serão avaliados para concorrer, enquanto que no Concurso, os cantores serão avaliados e concorrerão dentro das suas categorias.

Local: Sede da Associação ARCAG - Núcleo Rural Alexandre de Gusmão INCRA 6, Brazlândia, Km 28 - DF-180
Informações: (61) 9979-1618 - karaoke.rengokai@gmail.com

ジャパンフェスティバル1991 主要個別企画表

種別：展示

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
1	ヴィジョンズ・オブ・ジャパン展 Visions of Japan (現代日本総合紹介展)	9月16日～ 1月5日 (92年)	(ロンドン) ヴィクトリア・アンド・ア ルバート博物館	ジャパンフェスティバル委員会 国際交流基金 ヴィクトリア・アンド・ア ルバート博物館
2	鎌倉彫刻展 Kamakura: The Renaissance of Japanese Sculpture 1185-1333	9月17日～ 11月24日	(ロンドン) 大英博物館	文化庁 国際交流基金 大英博物館
3	ロボット技術展 Robotics Japan	9月16日～ 10月31日	(ロンドン) 科学博物館	ジェトロ 日本産業用ロボット工業会 科学博物館
4	近代日本画名作展 Nihonga: Traditional Japanese Painting 1900-1940	12月中旬～ 3月1日 (92年)	(ロンドン) 大英博物館	東京国立近代美術館 山種美術館 国際交流基金 大英博物館
5	民芸展 Mingei: The Living Tradition in Japanese Art	8月24日～ 10月4日 10月11日～ 11月10日 11月20日～ 1月12日 (92年)	(グラスゴー) バレル・コレクション (サンダーランド) タイン・アンド・ウェア ミュージアム (ロンドン) クラフツ・カウンシル ギャラリー	日本民芸館 グラスゴー美術館連盟
6	日英美術交流—美の対話展 Japan and Britain: An Aesthetic Dialogue 1850-1930	10月17日～ 1月12日 (92年)	(ロンドン) バービカン・アート・ギャラリー	バービカン・アート・ギャラリー 世田谷美術館
7	現代美術展 Your Bag of Thrills	10月15日～ 12月1日 12月18日～ 2月2日 (92年)	(リバプール) テート・ギャラリー・オブ ザ・ノース (ロンドン) ホワイット・チャペル・ アート・ギャラリー	テート・ギャラリー・オブ ザ・ノース ホワイット・チャペル・アート ・ギャラリー 国際交流基金

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
8	棟方志功展 Shiko Munakata: Master of the Woodblock	10月10日～ 11月24日 12月7日～ 1月26日 (92年) 2月1日～ 3月14日	(ロンドン) ヘイワード・ギャラリー (コベントリー) ミード・ギャラリー (ベルファスト) アルスター・ミュージアム	日本民芸館 ヘイワード・ギャラリー アート・カウンシル
9	東京富士美術館展 Behind Golden Screens	8月10日～ 10月20日	(エジンバラ) ロイヤル・ミュージアム・ オブ・スコットランド	東京富士美術館 ロイヤル・ミュージアム・ オブ・スコットランド
10	現代日本写真展 Beyond Japan-A Photo-Theatre	7月11日～ 9月22日	(ロンドン) バービカン・アート・ギャラリー	バービカン・アート・ギャラリー
11	メトロポリスー東京デザイン・ ヴィジョンズ Metropolis—Tokyo Design Visions	10月16日～ 2月2日 (92年)	(ロンドン) デザイン・ミュージアム	デザイン・ミュージアム 東京デザインネットワーク
12	北斎展 Hokusai 1760-1849	11月15日～ 2月9日 (92年)	(ロンドン) ロイヤル・アカデミー・オブ・ アーツ	ロイヤル・アカデミー・オブ・ アーツ
13	日本伝統工芸展 Traditional Handicrafts of Japan	9月21日～ 25日 9月28日～ 30日 9月28日～ 30日	(ロンドン) ロイヤル・ホーティカルチュ ラル・ソサエティ (サンダーランド) シルバーン・ホール (ベルファスト) アルスター・フォーク博物 館教育センター	伝統的工芸品産業振興協会
14	毎日書道展 Calligraphy	10月28日～ 11月16日	(北アイルランド) アルスター大学コルレイン校	毎日書道会
15	「禅：濱野年宏と寥 ー日本の現代美術ー Zen Buddhism-Hamano and Ryu ーcontemporary art from Japan	8月10日～ 9月7日 9月24日～ 11月2日 9月24日～ 11月2日	(エディンバラ) エディンバラ大学 タブロット・ライス・ギャラリー (サンダーランド) ノーザン・センター現代美術館 (タイン・アンド・ウェア) ワシントン・アート・センター	現代美術団体(寥) タブロット・ライス・ギャラリー ノーザン・センター現代美術館 ワシントン・アートセンター
16	現代日本建築展(写真展) The Contemporary Japanese Architecture	9月1日～ 26日 10月1日～ 26日 11月4日～ 27日	(シースケール) BNFL ヴィジターズ・センター (ベルファスト) クィーンズ大学ギャラリー (カーディフ) サウス・グラモルガン・ カントリー・ホール	国際交流基金

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
17	伝統陶芸展 Exhibition of Japanese Traditional Pottery	9月5日～ 9月21日 9月25日～ 10月12日 11月15日～ 12月16日	(リスバーン) ハーモニー・ヒル・アート・ センター (ニュータウンーズ) アーズ・アート・センター (オウィネド) シアター・アンダードウィー	国際交流基金
18	日本人形展 The Dolls of Japan	9月1日～ 15日 10月1日～ 24日 11月4日～ 23日	(クルック) ウェアバレイ・ディストリクト・カウンシル (アーマ) アーマ・カウンティ・ミュー ジウム (スターリング) マクロバーツ・アート・センター	国際交流基金
19	写真展「日本人」 The Japanese People	9月1日～ 25日 9月12日～ 10月12日 10月1日～ 12月20日 10月18日～ 12月末	(ウェスト・グラモーガン) マーガム・スカulptチュア・ パーク (スターリング) マクロバーツ・アート・センター (北アイルランド) アントリム・フォーラム他 (シースケール) BNFLビジターズ・センター	国際交流基金
20	日本のビデオ・アート展 Private Visions-Japanese Video Art in The 1980s	10月6日～ 20日	(ロンドン) I. C. A.	国際交流基金
21	凧・こま展 Japanese Kite and Tops	9月16日～ 10月2日 10月7日～ 27日 10月31日～ 11月17日	(S・グラモーガン) セント・ドーナツ・アーツ・センター (北アイルランド) ダウン・アート・センター他 (クレイガボン) ペインベルク・アート・センター	国際交流基金
22	現代日本ポスター展 New Japanese Graphics	9月9日～ 21日 9月24日～ 12月8日 9月25日～ 10月5日	(エニスキレン) アードホーウェン (ロンドン) デザイン・ミュージアム (デリー) オーチャード・ギャラリー	国際交流基金

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
22	現代日本ポスター展 New Japanese Graphics	10月5日～ 26日 11月4日～ 22日 12月2日～ 24日	(スコットランド) マックレアン・ミュージアム・ アンドアーツ・ギャラリー ワーキントン カーネギー・シアター (ウェールズ) カーマーサン・ライブラリー・ メイン・ホール	国際交流基金

種別：公演(舞台)

1	歌舞伎 Grand Kabuki	10月4日～ 19日	(ロンドン) ロイヤル・ナショナル・シアター	松竹 ロイヤル・ナショナル・シアター
2	文楽 National Bunraku Puppet Theatre	10月1日 5日 10月8日～ 9日 10月12日～ 13日	(ロンドン) クイーン・エリザベス・ホール (ベルファスト) グランド・オペラ・ハウス (ノッティンガム) プレイハウス	文楽協会
3	能一梅若研能会 Noh Theatre —Umewaka Kennokai	9月19日～ 22日 9月24日 9月26日～ 27日 9月30日～ 10月1日	(ロンドン) クイーン・エリザベス・ホール (マンチェスター) ロイヤル・ノーザン・カレッ ジ・オブ・ミュージック (スターリング) マクロバーツ・アーツ・センター (ヘクサム) クイーンズ・アーツ・センター	梅若研能会
4	地人会「はなれ瞽女おりん」 The Chijinkai Theatre Company/Orin	9月18日～ 9月21日 9月25日～ 9月28日 10月2日～ 9日	(ニューカスル) シアター・ロイヤル (エディンバラ) キングズ・シアター (ロンドン) マーメイド	地人会 文化庁
5	蜷川演出「タンゴ冬終わりに」 Tango at the End of Winter	8月8日～ 17日 8月23日～ 12月7日	(エディンバラ) キングス・シアター (ロンドン) ピカデリー	ポイント東京 セルマ・ホルト・リミテッド
6	西洋歌舞伎ハムレット Hamlet in a Kabuki version (グローブ座・シェイクスピア 演劇シリーズ)	9月19日～ 9月28日 10月9日～ 12日	(ロンドン) マーメイド (ニューカスル) プレイ・ハウス	東京グローブ座劇団 文化庁 「葉武列土」上演委員会

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
7	文楽テンペスト The Tempest in a Bunraku Puppet version (グローブ座・シェイクスピア 演劇シリーズ)	10月30日～ 11月2日	(ロンドン) マーメイド	文楽テンペスト上演実行委員会 文化庁
8	狂言ファルスタッフ Falstaff in a Kyogen version (グローブ座・シェイクスピア 演劇シリーズ)	11月8日～ 9日 11月12日～ 16日	(カーディフ) セント・ステイーブンス (ロンドン) マーメイド	万作の会 東京グローブ座 文化庁
9	現代劇キング・リア King Lear in a Modern version (グローブ座・シェイクスピア 演劇シリーズ)	10月22日～ 11月10日	(ロンドン) マーメイド (カーディフ) セント・ステイーブンス (ストラフォード・アボン・エイボン) ジ・アザー・プレイス	万有引力 東京グローブ座
10	第三舞台 The Angels with Closed Eyes (天使は瞳を閉じて)	11月6日～ 9日 11月13日～ 16日 11月20日～ 21日	(ロンドン) マーメイド (エディンバラ) セント・ブライズ (ベルファスト) ストラランミルス	オフィス・ザ・サード・ステ ージ
11	ジーザス・クライスト・ スーパースター(歌舞伎版) Jesus Christ Superstar	9月24日～ 28日	(ロンドン) ドミニオン・シアター	劇団四季
12	山海塾 The Egg Stands Out of Curiosity(卵を立てることから)	10月23日～ 11月2日	(ロンドン) サドラーズ・ウェルズ	山海塾
13	勅使河原三郎 and KARAS DAH-DAH-SKO-DAH-DAH	10月29日 11月1日～ 2日 11月5日～ 9日 11月14日～ 16日	(マンチェスター) ロイヤル・ノーザン・カレッジ・ オブ・ミュージック (ニューカスル) プレイ・ハウス (ロンドン) サドラー・ウェルズ (ベルファスト) ストラランミルス	カラス
14	パパ・タラフマラ Parade	10月22日 10月25日～ 26日	(マンチェスター) ロイヤル・ノーザン・カレッジ・ オブ・ミュージック (ニューカスル) (ロンドン) リバサイド・スタジオ	パパ・タラフマラ

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
14	パパ・タラフマラ Parade	10月29日～ 30日	(ニューカスル) プレイ・ハウス	パパ・タラフマラ

種別：公演(音楽)

1	斎藤記念オーケストラ (小沢征爾指揮) The Saito Kinen Orchestra	9月16日	(ロンドン) ロイヤル・フェスティバル・ ホール	斎藤記念オーケストラ
2	東京交響楽団 (秋山和慶指揮) Tokyo Symphony Orchestra	10月7日 8日 9日 11日 12日	(バーミンガム) ニュー・シンフォニー・ホール (グラスゴー) ロイヤル・コンサート・ホール (スウォンジー) ブラングウィン・ホール (ベルファスト) アルスター・ホール (ロンドン) ロイヤル・フェスティバル・ ホール	東京交響楽団 文化庁
3	武満徹作品特集 Takemitsu Signature	10月10日～ 13日	(ロンドン) バービカン・センター及び ギルド・ホール	バービカン・センター
4	内田光子演奏会 Mitsuko Uchida Piano	11月27日	アプスレイ・ハウス	ジャパンフェスティバル 委員会
5	若手演奏家コンサート Young Musicians from Japan	9月19日～ 10月30日	(カーディフ) (ニューカスル) (北アイルランド) (グラスゴー) (ロンドン)	ジャパンフェスティバル 委員会
6	渡辺貞夫コンサート Sadao Watanabe	11月18日～ 23日 11月25日	(ロンドン) ロニー・スコット・ジャズ クラブ ロイヤル・フェスティバル・ ホール	ワタナベ・サダオ・グループ
7	坂本龍一コンサート Ryuichi Sakamoto	10月13日	(ロンドン) ハマースミス・オデオン	サカモト・リュウイチ・ グループ
8	東京少年少女合唱隊 Little Singers of Tokyo	9月14日～ 22日	(ロンドン) (ベルファスト) (マンスフィールド) (ノッティンガム) (カーライル)	東京少年少女合唱隊

種別：映画・放送

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
1	日本映画特集「監督50選」 Big Fifty/Japanese Cinema 1931-1991	9月中旬～ 11月初旬 (各週の木、 金、土、日)	(ロンドン) バービカン・センター	東京国立近代美術館フィルム・センター 日本映画海外普及協会 日本映画製作者連盟 バービカン・センター
2	日本「シネマ」スコープ特集 1957～1970 The Power of the Image/ A Celebration-of Japanese Scope Films	9月1日～ 9月30日	(ロンドン) ナショナル・フィルム・シアター	川喜多記念映画文化財団 ナショナル・フィルム・シアター

種別：シンポジウム

1	ロイヤル・ソサエティ・ オブ・アーツ The Environment/ Japanese Education/ Firm and Family	10月2日 16日 30日	(ロンドン) ロイヤル・ソサエティ・オ ブ・アーツ	国際交流基金 ロイヤル・ソサエティ・オ ブ・アーツ
2	ロボット技術 Expectation for Robot Technology in the 21st Century	9月18日	(ロンドン) 科学博物館	ジェトロ・日本産業用ロボ ット工業会 英国国立科学博物館
3	鎌倉彫刻 Kamakura Sculpture	11月21日、 22日	(ロンドン) 大英博物館	大英博物館
4	技術革新と社会 Technological change and Society	11月1日	(ロンドン) Q E II コンファレンス・ センター	東芝国際交流財団
5	21世紀への新秩序を求めて New Visions for the 21st Century	10月30日、 31日	(ロンドン) 科学博物館	国際AI財団 クランフィールド工科大学
6	ブラントン記念セミナー UK-Japan Technology Brunton Memorial Event	10月24日	(ロンドン) 科学博物館	横浜市ブラントン 記念事業 実行委員会
7	クオリティ・オブ・ライフ・イン・ ジャパン Quality of Life in Japan	9月12日～ 14日	(オックスフォード) ニッサン・インスティテュート	ニッサン・インスティテュート
8	日本法コンファレンス Globalization of Japanese Corporation Legal Issues	11月3日～ 5日	(ロンドン) ロンドン大学ユニバー シティ・カレッジ	ロンドン大学ユニバー シティ・カレッジ

種別：オープン・エア・イベント

	「祭」 Matsuri	9月21日、 22日	(ロンドン) ハイド・パーク	ジャパンフェスティバル 英国委員会
--	----------------	---------------	-------------------	----------------------

種別：スポーツ

番号	催 事 名	時 期	会 場	実 施 機 関
1	大相撲 Grand Sumo Tournament	10月9日～ 13日	(ロンドン) ロイヤル・アルバート・ホール	ジャパンフェスティバル委員会 日本相撲協会
2	流鏑馬 Yabusame	9月15日 9月21日、 22日	(カーディフ) カーディフ・キャッスル (ロンドン) ハイド・パーク	日光東照宮
3	日英卓球交流試合 UK-Japan Friendship Table Tennis Matches	10月18日～ 26日	イングランド、スコットラ ンド、北アイルランド、ウ ェールズ、アイルランド	日本卓球協会 英国卓球連盟

種別：東京ウィーク

1	東京ウィーク記念講演 Tokyo Week	10月15日	ロトンダ・ギャラリー (ロンドン)	東京ウィーク実行委員会
2	江戸・東京文化展 Edo Tokyo Cultural Exhibition	10月9日～ 15日	同上	同上
3	人間国宝東京10人展 Exhibition of Living National Treasures	10月9日～ 15日	同上	同上
4	江戸花火打ち上げ Fire works	10月8日	テムズ川 (ロンドン)	同上

種別：京都庭園

	京都庭園 Kyoto Garden	9月17日 開園	ホランド・パーク (ロンドン)	京都商工会議所
--	----------------------	-------------	--------------------	---------

国際交流基金事業

(主催)▶展示：ヴィジョンズ・オブ・ジャパン展／鎌倉彫刻展／近代日本画名作展／現代美術展／現代日本建築写真展／日本人形展／写真展「日本」／日本のビデオ・アート展／凧・こま展／現代日本ポスター展／伝統陶芸展
▶派遣：連続講演会「環境」「教育」「婦人」／詩の朗読会 ▶視聴覚：日本「シネマ」スコープ特集1957－1971

(助成)▶展示：禅・濱野年宏と蓼 ▶公演：歌舞伎／文楽／西洋歌舞伎「ハムレット」／狂言「フォルスタッフ」／現代劇「キング・リア」／天使は瞳を閉じて／卵を立てることから／パレード／東京交響楽団 ▶派遣：講演とデモンストレーション「水墨画」／講演とデモンストレーション「折り紙の治療と教育における効果」／シンポジウム「演劇・東と西」／展示・講演・公演「日本のシェークスピア」 ▶視聴覚：日本の映画特集「監督50選」